

ケニア人口教育促進プロジェクト
実施協議調査団報告書

1989年12月

国際協力事業団
医療協力部

医 薬

J R

89 - 36

20588

JICA LIBRARY



1080049181

ケニア人口教育促進プロジェクト
実施協議調査団報告書

1989年12月

国際協力事業団
医療協力部

国際協力事業団

20588

序 文

ケニア国政府は、年率約4%（1980-86年平均）の人口増加率を西暦2000年までに、2.5%までに引き下げることを目指した人口戦略を策定し、この戦略にもとづき1986年同国政府は、日本政府に対し人口家族計画の分野における協力を要請越した。当事業団は、1986年9月コンタクトミッション、1987年2月基礎調査団、1988年1月事前調査団を派遣し、さらにこれらの結果にもとづき1988年12月に実施協議調査団を派遣した。本報告書は、その調査結果を取りまとめたものである。ここに本調査の任にあたられた調査団長をはじめ団員の方々並びに調査にご協力いただいた各関係機関及び関係各位に深く甚なる謝意を表する次第である。

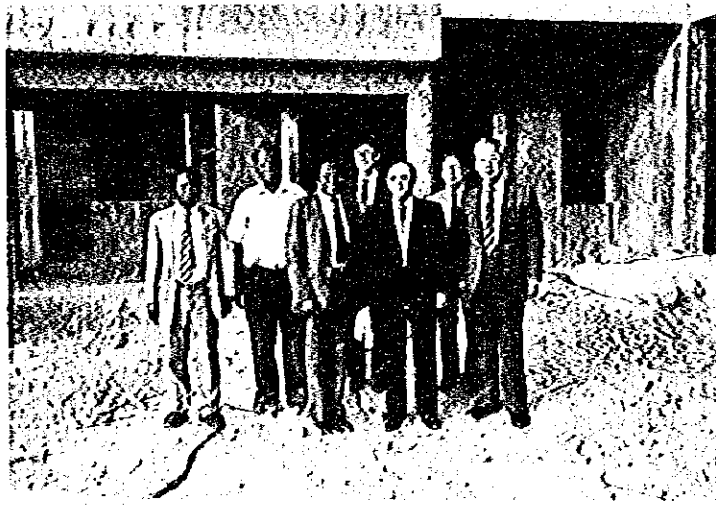
1989年12月

国際協力事業団

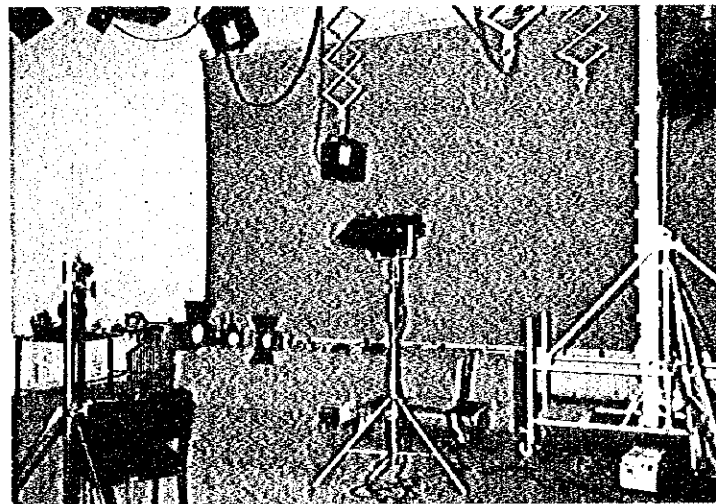
理事 西野 世界



国家人口審議会（NCPD）にて水越団長、コバイ副大統領府次官補はR/D署名を了す。（1988年12月16日）



Kenya Institute of Mass Communication（KIMC）に建設中のスタジオ等の施設（同施設完成後JICA供与機材が設置され専門家等が配置される予定である）



スタジオ及び編集用機器、KIMC

CHILDREN BY CHOICE



NOT BY CHANCE



FOR HEALTH AND PROGRESS PLAN YOUR FAMILY



FAMILY PLANNING ASSOCIATION OF KENYA (FPAK) 制作のポスター

国家人口開発審議会 (NCPD)及びFamily Planning Private Sector Programme
 がケニアを含めたアフリカ人の画家により制作した1989年のカレンダー



**Mtoto umleavyo
 ndivyo akuavyo**
**Children will grow
 as you raise them**

JANUARY 1989

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

FEBRUARY

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28				

FAMILY PLANNING PRIVATE SECTOR - 8/25 PROGRAMME

Eric B. Ndlovu

Was born in 1959 in South Africa. He did his matric Form V in 1977 at Orlando West High School but could not complete his education there due to the student protest against Bantu education. The later year he decided to leave the country with the intention of furthering his studies abroad. In 1978 he came to Kenya and was granted political asylum. In the last few years he had several exhibitions in Nairobi and took part in joint exhibitions locally and abroad. His work was on the cover of the AACC Refugee Service Publication. He designed winning posters for the Family Planning Private Sector Artistic Visions Workshop.



**Mvulana au Msichana;
 mtoto ni mtoto**
**Boy or Girl;
 a child is a child**

Ancent Sol

Was born in 1939 in Mbooni Location Machakos District. He was educated in Etikoni Primary School up to Std. 8. He came to Nairobi in 1965 to work in a curio shop. There he decided to paint and worked in the shop during the day and painted at night. He has his first exhibition in 1975 in the African Art Gallery in Washington D.C. U.S.A. Numerous exhibitions followed. Sol won the first prize in the All African Competition to design a poster advertising the All African Games in Munich, Germany in 1972. His colourful naive style portrays scenes from his homeland, always true to tradition but including modern rural life. He also applied himself to present day issues like family planning and took part in the exhibition 'Artistic Visions of Family Planning' in the Goethe Institute.

P.O. Box 46635, Nairobi.



**Kwa nini unazaa mtoto
usiyemtaka?
panga jamil yako
Why have a child you don't
want?
Plan your family**

ASI

Was born in England in 1965 to a Kenyan (Luhya) father and Jamaican mother. His parents returned to Kenya in 1965, so he was raised in Kenya. He attended the University of Nairobi and obtained a B.Sc. in Electrical Engineering. He began painting in 1975 during his holidays, free time and in the evenings. Though he did art in school up to form four, he obtained a poor pass. He has had no formal art training, but has learned by constant practice. At present he is a time freelance artist working in many media including imaginatives, abstracts and murals. He specializes in portraiture and graphics.



**Mama na mtoto wana-
tarajia maisha gani?
What future for mother
and child?**

Jak Katarikawe

His works are dreamlike renderings of traditional scenes. He was born in Uganda in 1940 and is completely self-taught. He has been widely exhibited, among other places, in the Commonwealth Institute London, Lagos, Festac in Germany and in USA at IMF Headquarters in Washington, D.C. All his pictures are accompanied by long stories which explain some of their symbolism. One of his pictures was recently commissioned to be used on a UNICEF stamp. He took part in the exhibition 'Artistic Visions of Family Planning' in the Goethe Institute. P.O. Box 41855, Nairobi.

F.P.P.S.

The Family Planning Private Sector Programme is a supplement to the Government of Kenya in providing family planning services to the people of Kenya. It is funded by the United States Agency for International Development and assists private sector firms, parastatals and other private and non-

government institutions already providing health services to workers, their dependents and often the adjacent community to upgrade their services and add a family planning facility. It is under the direct supervision of the National Council for Population and Development.

目 次

1. 調査実施に至る経緯	1
2. 調査団の構成・日程	1
3. 調査の概要	4
3-1 総 括	4
3-2 実施協議調査団	4
3-3 実施計画と課題	5
4. 交渉経緯	7
4-1 R/D協議	7
4-2 対処方針	12
5. プロジェクト実施上の留意点	35
5-1 IEC分野	35
5-2 MCH分野	49
6. 資料等	67
6-1 R/D	69
6-2 Kenya Insitute of Mass Communication (PROSPECTIVIS)	82

1. 調査実施に至る経緯

ケニア政府は人口家族計画を保健省並びに非政府機関を中心に実施してきたが、実効があがらないため、1982年副大統領を長とする「国家人口開発審議会」(NCPD)を発足させ人口政策の体系化と関係機関との調整等を行なっている。

同審議会の活動面については、保健省を中心にした家族計画関連サービス供給力の拡充と並んで、他の省庁、NGOの積極的参画を前提とした広範な宣伝教育活動(IEC: Information Education Communication)の展開と強化を中心的な施策としている。同審議会は「ケニア国家人口戦略」を策定し、2000年迄に人口強加率を2.5%に引き下げる目標を立て、それに必要な母子保健や、家族計画から宣伝教育活動に至るまでの様々な活動を開始した。

1986年ケニア政府は、NCPDの活動に対して日本政府の協力を要請越した。しかし、その協力の分野の特定がなかったため、同年9月コンタクトミッションを派遣するとともに、更に、その協力内容を策定するため1987年2月基礎調査団を派遣し調査した。その結果、宣伝教育分野(IEC)が最も適当である旨合意されたので、1988年1月さらに協力の場所、規模、期間等についての調査を行うため事前調査団を派遣し、当プロジェクトは3年間の期間にて「望ましい家族規模に関する価値観」に改革をもたらすことを目指し、IEC活動を強化するという観点からNCPDの組織強化と同時に広報普及用メディアの開発、制作を行うことで合意した。

以上の経緯を踏まえ、同年12月協力計画の詳細について協議を行うため実施協議調査団を派遣したが、本報告書はその結果をとりまとめたものである。

2. 調査団の構成・日程

2-1 調査団の構成

団長	水越 敏行	大阪大学人間科学部教授
団員	関 英一	厚生省児童家庭局母子衛生課主査
団員	内海 成治	JICA国際協力専門員
団員	瓜生 正彦	JICA医療協力部医療協力特別業務室

2-2 日程

日順	月日	行程及び調査内容
1	12/5月	東京発 21:30 BA006
2	6火	ロンドン着 05:15
3	7水	ロンドン発 19:00 BA055
4	8木	ナイロビ着 06:25 14:00 JICA事務所 日程等打合せ 15:30 日本大使館表敬 対処方針等説明
5	9金	09:30 ~12:30 NCPD (永目書記官、十郎所員同行。ケニア側は、 Mr. J. M. HUNGU、Mr. D. ODALLO) 日程等打合せ 要請内容確認 R/Dの構成について説明 14:00 KIMC (熊岸所長同行。ケニア側は、Mr. J. M. OSIAKO、 Mr. O. OKITE、Mr. E. N. MUNYI、Mr. D. ODALLO) 校長よりKIMCの目的およびUNFPAとの共同プロジェクトの説明を受ける。 施設見学 (テレビ・ラジオ部門、映画部門、建設中の当プロジェクト入居予定施設)
6	10土	AM 閉内にて、供与機材・専門家および研修員に係る事項について検討 A1・A4のドラフト作成
7	11日	資料取りまとめ。
8	12月	独立記念日 "
9	13火	09:30~18:30 NCPD (十郎所員同行。ケニア側は、Mr. J. M. HUNGU Mr. D. ODALLO、Mr. J. M. OSIAKO、Mr. O. OKITE、Mrs. D. K. MUSAU) R/Dドラフトの詳細検討 昼食時ケニア側の要望により印刷所見学
10	14水	10:00~12:00 JICA事務所にて、NCPD・KIMCおよび大蔵省 とR/Dドラフトの修正項目・機材仕様・専門家派遣および研修員受け入れについて検討 13:00 ナイロビ大学 Population Studies & Research Institute 視察
11	15木	R/Dドラフトの修正項目について協議

12	16金	R/D等の締結、日本大使館報告 ナイロビ発23:25 LH589
	17土	フランクフルト着 05:50 フランクフルト発21:40 JL408
13	18日	東京着 17:05

2-3 主要面談者

NCPD

Mr. Abudi Kobai Vice President Office, Deputy Permanent Secretary
 Mr. J. M. Hungu Director
 Mr. Dan Odallo Demographer, IEC Div.
 Mr. G. Mwangi Kahuthia Demographer, IEC Div.

KIMC

Mr. Job M. Osiako Principal
 Mr. Odhiambo Okite Head of Information
 Training and of Population Communication Studies
 Mr. Eston Njeru Munyi Lecturer in Film Production and Head of Laboratory Training and a co-ordinator Studies

大蔵省

Mrs. D. K. Musau External Resources Dep.
 Assistant Secretary, Assistant Desk Officer, Japan Desk

3. 調査の概要

3-1 総括

昭和63年(1988)12月16日午後、当プロジェクトに係るR/Dは、NCPDにて水越敏行団長ならびにケニア側MR. ABUDI KOBAI (Vice President Office, Deputy Permanent Secretary)により締結された。

家族計画は、ライフスタイルを変えることにつながる。つまり、望ましい家族規模に関する価値観に変革をもたらすことにある。ここにIEC活動、つまり啓蒙活動の重要性がある。ケニアでは現在までのところ、IECに係るハード・ソフトの両面で脆弱であるため、十分な成果を上げておらず日本の協力は高い効果を上げ得ると考える。

対象分野	IEC (Information Education Communication)
協力期間	3年(1988.12.16~1991.12.15)
協力対象機関	国家人口開発審議会(NCPD)
協力形態	プロジェクト方式技術協力
具体案	広報普及用メディアの開発、制作、NCPDの組織機能強化。

留意点

1) プロジェクトサイト

カウンターパートであるNCPDは、IEC活動の核となるメディアの制作手段等を有していない。このためKIMC (Kenya Institute of Mass Communications) をプロジェクトサイトとする。

2) モデル地区設定のための調査

事前調査では、モデル地区を設定し制作されたソフトの適応を行うとしていたが、今回NCPDの組織機能強化を重点に置き、モデル地区の設定は、社会調査等を行い将来に備える。

3) IECの効果的展開に係る調査

52部族が存在する、文化的社会的多様性の中でのIEC活動を効果的に展開するために、短期専門家等によるメディア・リテラシー等調査を行う。

3-2 実施協議調査団

調査の内容と目的

・ケニア国は、西暦2000年に人口増加率を2.5%にまで引き下げることを目指し、我が国に対し家族計画分野での協力要請越した。“望ましい家族規模に関する価値観”に変革をもたらすことを目指し、IEC活動、つまり、啓蒙活動を強化することとなった。この観点から、NCPDの組織機能強化と同じに広報普及用メディアの開発、制作を行うため、どのような協力が可能か調

査を行う。

・日本への協力要請

1986. 7 ケニア政府協力を要請

9 コンタクトミッション

87. 2 基礎調査

88. 1 事前調査

12 実施協議

・調査内容（ケニア側要請内容の確認。R/Dの内容協議。専門家派遣、研修員受け入れ、機材供与の内容協議。R/D署名。）

3-3 実施計画と課題

1) 専門家派遣

A 長期専門家

リーダー IECの効果的展開の策定、実施。NCPD強化のための方策策定実施。プロジェクトの管理運営。

コーディネータ 情報収集・整理。関係機関との調整連絡。機材等の現地調達。短期専門家支援。研修員に係る事項等。

IEC制作 作品の制作指導。制作能力向上のための方策。

B 短期専門家 3人/年

IEC調査

a. IECの効果的展開に係る基礎調査（1989年7月～9月末）

MCH/FP実態調査

複数地域を対象にしたサンプリングによる社会調査（家族社会学的調査、就学・進学・就職状況調査、村落の年齢構成や社会的移動調査）

b. IEC制作の基礎調査（1989年秋）

メディア（テレビ、ラジオ、スライド、ポスター等）のポテンシャルをハード、ソフト及び人材も含めての調査

c. メディア・リテラシー調査（1990年1月～6月）

メディアの日常接触状態、読み書き能力、映像視聴能力

MCH/FP

a. UNFPA等関係機関のMCH/FP担当者との連絡・調整

b. IEC調査のデザインに際し、指導・助言

c. IEC教材のデリバリー・ルートの調査等

IEC制作

a. 番組制作 (1990年8月～11月)

Produce and Director (PD) 1名
カメラ、音声音響、編集 3名程度

b. 補助教材の制作 (1990年9月～11月)

ポスター、パンフ、模型、オーディオなどの補助教材制作

C 計画打合せ等調査

1989年派遣予定

1990年派遣予定

D エバリュエーション調査

1991年派遣予定

2) 研修員受入計画 (3名/年)

目的 NCPDの機能強化に資する人材の育成。IEC制作等能力に資する人材の育成。

対象分野及びケニア側対象機関

IEC調査 NCPDスタッフ

MCH/FP

IEC制作 KIMCスタッフ

3) 機材供与

昭和63年度 1億円

4) 専門家派遣前の技術研修

長期及び短期専門家に対し、IEC及びMCH/FPに係る事前研修を必要に応じて実施する。

4. 交渉経緯

4-1 R/D協議

R/Dに係る協議は対処方針(4-2を参照)に基づき1988年12月9日から15日にかけてNCPD等にて実施され、ほぼ当方案の内容で合意に達し、12月16日に日本側水越団長、ケニア側Mr. ABUDI KOBAI副大統領府次官補により署名を了した。なお、当方案の変更点等は以下のとおり。

1) 本文(カバリング)

・署名

副署にケニア事務所長及び特権免除に関してケニア側大蔵省次官(Permanent Secretary, Ministry of Finance)を予定していた。しかし、R/Dについては従来より事務所長の署名はしていないこと、またR/Dは最終的に大蔵省にてオーソライズされるとの理由から両者の副署は必要ないこととし合意した。

2) The Attached Document (附属文書)

① VII ADMINISTRATION OF THE PROJECT (プロジェクトの管理体制)

ケニア側より、KIMCの役割について言及したいとの要望があり以下のA及びB案が提案されたが日本側はC案を代替案として提案し、双方は最終的に日本側のC案にて合意し、VIII. 3項とした。

ケニア側案(A及びB案)

A 案

In the implementation of the project, KIMC being the Project Site and Host shall be responsible for the day to day administration and management.

Further Details of Project Administration Will be worked out between NCPD and KIMC.

B 案

3項 The Japanese experts……personnel concerned,の後に次の文章を挿入する。

「and in the implementation of the Project, KIMC being the Project Site, will be responsible for daily activities.」

日本側案 C

3項については、The Director of KIMC(Site of the Project)will be responsible for the activities conducted of KIMC in accordance with the coordination referred to in 2. とする。新たな4. として、The Japanese experts~personnel concerned,までとする。

当初案

VII ADMINISTRATION OF THE PROJECT

1. The permanent Secretary of the Office of the Vice-President, Ministry of Home Affairs and National Heritage, as the Project Director, will bear overall responsibility for the implementation of the Project.
2. The Director of National Council for Population and Development(hereinafter referred to as "NCPD"), as the Project Coordinator, will be responsible for the administrative and managerial matters of the Project including coordination with the Kenya Institute of Mass Communications(hereinafter referred to as "KIMC")and other related institutions.
3. The Japanese experts will provide necessary technical and managerial advice for the implementation of the Project in close collaboration with the Kenyan counterpart personnel concerned.
4. For effective and successful implementation of the Project, a Coordinating Committee will be established with the function and composition as referred to in ANNEX VI.

変更後

VII. ADMINISTRATION OF THE PROJECT

1. The permanent Secretary of the Office of the Vice-President, Ministry of Home Affairs and National Heritage, as the Project Director, will bear overall responsibility for the implementation of the Project.
2. The Director of National Council for Population and Development(hereinafter referred to as "NCPD"), as the Project Coordinator, will be responsible for the administrative and managerial matters of the Project including coordination with the Kenya Institute of Mass Communications(hereinafter referred to as "KIMC")and other related institutions.
3. The Principal of KIMC (Site of the Project)will be responsible for the activities conducted at KIMC in accordance with the coordination referred to in 2.
4. The Japanese experts will provide necessary technical and managerial advice for the implementation of the Project in close collaboration with the Kenyan counterpart personnel concerned.
5. For effective and successful implementation of the Project, a Coordinating Committee will be established with the function and composition as referred to in ANNEX VI.

② ANNEX I MASTER PLAN 2. 2)

標記についてはKIMCに対し機材を設置することを目的として「Upgrading technical ability of KIMC with modern equipment」としていたところ、プロジェクトの目的がKIMCの機能強化のようにとれるため以下のように変更。

(Upgrading IEC capability with provision of equipment;)

③ 協力内容の文言の変更(ANNEX I MASTER PLAN 2.3) 及び4)

- ・3) In Service training of Key personnel をTraining of IEC personnel に変更。
- ・4) Development of Audio Visual materialsをDevelopment of IEC materialsに変更。

当初案

MASTER PLAN

1. Objective of the Project

The objective of the Project is to reinforce family planning and maternal and child health activities in the Republic of Kenya by promoting the activities of Information Education and Communication (IEC) in KIMC.

2. Activities under the Project

The Project will consist of the following activities;

- 1) Research on IEC;
- 2) Upgrading technical ability of KIMC with modern equipment;
- 3) In-service training of Key personnel;
- 4) Development of audio visual materials;

変更後

MASTER PLAN

1. Objective of the Project

The objective of the Project is to reinforce family planning and maternal and child health activities in the Republic of Kenya by promoting the activities of Information Education and Communication (IEC) in KIMC.

2. Activities under the Project

The Project will consist of the following activities;

- 1) Research on IEC;
- 2) Upgrading IEC capability with provision of equipment;
- 3) Training of IEC personnel;
- 4) Development of IEC materials;

④ 供与機材の追加 ANNEX III

Small-scale printing equipmentを追加する。

具体的機材内容は次の通りである。なお、これら機材は当初計画に含まれている。

機材項目

①コピーマシン ②ワードプロセッサ ③タイプライター

当初案

LIST OF EQUIPMENT

1. Equipment for Video Studio
2. Equipment for Out-Door Production
3. Equipment for Video Editing System
4. Equipment for Audio Recording System
5. Equipment for Slide Production
6. Vehicle
7. Equipment for training

変更後

LIST OF EQUIPMENT

1. Equipment for Video Studio
 2. Equipment for Out-Door Production
 3. Equipment for Video Editing System
 4. Equipment for Audio Recording System
 5. Equipment for Slide Production
 6. Vehicle
 7. Equipment for training
 8. Small Scale Printing Equipment
- ⑤ ケニア側より提供されるファシリティ (ANNEX V 2(1)) Audio Studioを追加する。

当初案

LAND, BUILDINGS AND FACILITIES

1. Land for the Kenya Institute of Mass Communications in Nairobi
2. Buildings and facilities
 - (1) Sufficient space for the implementation of the Project
 - a) Video Studio
 - b) Video Editing Room
 - c) Workshop
 - d) Others
 - (2) Offices and necessary facilities for the Japanese experts
 - a) Japanese Expert's Rooms
 - b) Meeting Room

c) Others

変更後

LAND, BUILDINGS AND FACILITIES

1. Land for the Kenya Institute of Mass Communications in Nairobi

2. Buildings and facilities

(1) Sufficient space for the implementation of the Project

a) Video Studio

b) Video Editing Room

c) Audio Studio

d) Workshop

e) Others

(2) Offices and necessary facilities for the Japanese experts

a) Japanese Expert's Rooms

b) Meeting Room

c) Others

⑥ 当初案 ANNEX VI. COORDINATING COMMITTEE

2.1) Chairman:and National Heritage. の後に以下の文章を追加。

「(The director, NCPD can deputise for the chairman in his absence.)」

変更後

2. Composition

1) Chairman: Permanent Secretary of the Office of the Vice-President, Ministry of Home Affairs and National Heritage.

(The director, NCPD can deputise for the chairman in his absence.)

3) VII相手国政府のとりべき措置

VII 1. (3X4)に記載される専門家の国内旅費・日当及び住宅提供についてケニア側は、財政事情を理由に提供出来ない旨説明があり両項目の削除を求められた。当方としては、これら項目は本来ケニア側が負担すべき経費であるが、実行上は日本側で負担することとなる旨説明した。同席したケニア大蔵省援助局日本課担当者も、従来より当該項目については、日本側が負担している事実を説明し、当該事項は日本国内での事情もあることから日本側に対し無理な要求はしないよう求め最終的に同意した。しかしながら、ケニア側より実態に合わない項目を何故記載するのか疑問である旨の発言があった。当該項目については、トルコ人口教育促進プロジェクトのR/D締結の際にも問題となっており、種々のローカルコスト負担事業が実施されている現状において、基本文書であるR/Dに実態に合わない事項を記載することに何の意義があるのか疑問であり、今後当該項目については弾力的な対応ができるよう配慮すべきであると思われる。

る。

VI. MEASURES TO BE TAKEN BY THE GOVERNMENT OF THE REPUBLIC OF KENYA

1. In accordance with laws and regulations in force in the Republic of Kenya the Government of the Republic of Kenya will take necessary measures to provide at its own expense:

- (1) Land, buildings and facilities as listed in Annex V;
- (2) Supply or replacement of machinery, equipment, instruments, vehicles, tools, spare parts and any other materials necessary for the implementation of the Project other than those provided through JICA under III above;
- (3) Transportation facilities and travel allowance for the official travel of Japanese experts within the Republic of Kenya;
- (4) Suitably furnished accommodations for the Japanese experts and their families.

2. In accordance with laws and regulations in force in the Republic of Kenya, the Government of the Republic of Kenya will take necessary measures to meet:

- (1) Expenses necessary for the transportation of the Equipment within the Republic of Kenya as well as for the installation, operation and maintenance thereof;
- (2) Customs duties, internal taxes and any other charges imposed on the Equipment in the Republic of Kenya;
- (3) All running expenses necessary for the implementation of the Project.

4-2 対処方針

1. 調査団派遣の経緯・目的

1. 要請内容及び背景

ケニアの近年の人口増加率は年 3.8%と見積もられ、世界で最も高い部類に属する。この結果、失業問題・食料問題と基本的公共サービス（教育）の分野で様々な社会問題を引き起こしている。この為、ケニア政府は1982年国家人口開発審議会を発足させ、人口政策の立案・関係機関の調整を行っているが、1986年においても人口増加率は 3.7%と依然高い率となっている。1987年10月ケニア政府は短期・長期人口戦略を発表、2000年には 2.5%まで引き下げることを目標としている。ケニア政府は1986年に我が国に対し家族計画分野での協力援助の要請越した。

2. 対応方針

ケニア国の要請を踏まえ基礎調査及び事前調査の結果、副大統領府「国家人口開発審議会」(NCPD) をカウンターパートとして宣伝教育活動 (IEC) 分野へのプロジェクト技術協力を実施する。

3. 調査内容・項目
 1. ケニア側の要請内容の確認
 2. 専門家派遣・研修員受入れ・機材供与協議
 3. R/Dの内容協議
 4. R/Dの署名
2. 調査団の構成（2参照）
3. 調査日程（2参照）
4. 問題点
 - 1) 今年度機材供与に係る予算措置（約6千万円）をしており、これを早急に執行する必要がある。
 - 2) 国家人口開発審議会（National Council for Population and Development 略称:NCPD）は I E C活動の核となるProduction Facility（メディアの制作場所）を有していない。ケニア政府は、情報省傘下のKenya Institute of Mass Communication(KIMC) を提示（別添1）してきたが、NCPDが独自のProduction Facility を有していない以上、借り物とならざるを得ない。と同時に現在のところ、その人材も有していない。（別添2.1-2）
 - 3) 制作された成果品は、家族計画、母子保健の理解のため広く国民に対し使用されることになる。この際コミュニティーレベルでの流通ルートの整備・確保が必要となるところ、現状では地域における母子保健・家族計画に関するサービスの提供（サービスティリバリー）は保健省・NGOがほぼ独占している。もちろんNCPDも地方事務所設置と同時にサービスの提供をスタートしたが事務所数も少なく経験もない。したがって、モデル地区を設定し、その上で成果品の適用を図る方法は、現在のNCPDの体制では無理である。
 - 4) なお、ケニア側とのR/D交渉において、いくつかの点については対案を用意し、柔軟な対応をすべきと思われる。具体的には、対処方針でポイントを特定する。
5. 対処方針
 - 1) 総論
今後3年間に亘り① I E Cに係る調査 ②教材作成、機材の供与 ③教材作成技術 ④要員の訓練に係る協力を実施すべくケニア側と協議し、R/Dを締結する。
 - 2) 各論
 - 2)-1 問題点1)に関し、11月に職員を当地に立ち寄せ、Production Facility (KIMC)を視察せしめた。
この結果（規模・既存設備）を踏まえ、供与機材内容を提示する。なお、当初考えられていたモデル地区は設定せずProduction Facility(KIMC) の強化・充実を図る旨説明する。
 - 2)-2 問題点2)、3)NCPDにはProduction Facility 及びカウンターパートが配置されていないため当面の間、これら二つの事柄に関し情報省KIMCに依存せざるを得ず、プロ

プロジェクトの運営に不安が残る。このためR/D案では、R/Dの署名者及びProject Directorを副大統領府のPermanent Secretary、Project Coordinator をNCPDのDirectorとし同様にCommittee memberのChairmanを副大統領府Permanent Secretaryとし、国家人口政策の最高責任者を持つてくることで当プロジェクトの存在感・重要性を具現化しておきたい。なお、代案としては下記を用意しておく。

署名者	→ NCPD のDirector
Project Director	→ NCPD のDirector
Project Coordinator	→ KIMC のDirector
Committee member(chairman)	→ NCPD のDirector

なお、KENYAN COUNTERPART AND ADMINISTRATIVE PERSONNEL 及びCOORDINATING COMMITTEE のメンバー構成は、KIMCに特に配慮する方向でケニア側と作業を進めることとする。

2)-3 問題点4 NCPDはIEC分野では未経験に等しく、人も機材設備もない。このため今後3年間を通しNCPDが施設等を借りるKIMCを中心に当分野の育成強化を図ることとする。現段階ではモデル地区を設定してのIEC活動は、無理であり、今回の協力期間中にその体制作りを行うこととし、その後次のステップにつなげる旨説明する。

2)-4 専門家・研修員

本年度中に専門家2名を派遣する予定であり、要請書を取り付けるよう努力する。また、研修員についても本年度中に2名の受入れの予定。

2)-5 その他

署名者として团长一相手国政府以外に、ウイットネスとしてケニア事務所及び特権免除に関連して大蔵省PSの署名を取り付けるよう努力する。しかしながら、当署名取り付けは特に固執しない。



(別添1)

OFFICE OF THE VICE-PRESIDENT, MINISTRY OF HOME AFFAIRS AND
NATIONAL HERITAGE
NATIONAL COUNCIL FOR POPULATION AND DEVELOPMENT

Telegrams: "MUKAMU", Nairobi
Telephone: Nairobi 25411
When replying please quote



P.O. Box 30478
NAIROBI, KENYA

Ref. No: NCPD 6/2/8TA
and date

12th October 1988

Mr. Masayoshi Juro,
Asst. Resident Representative,
Japan International
Co-operation Agency,
P. O. Box 50572,
NAIROBI.

Dear Sir,

JICA-NCPD POPULATION PROJECT

I am responding to your recent letter on the proposed JICA-NCPD Population Project which JICA intends to consider for funding.


The NCPD has held discussions with the Ministry of Information and Broadcasting in which that Ministry was represented by the Deputy Secretary at its Headquarters, two Under-Secretaries and the Principal of the Kenya Institute of Mass Communications. These discussions have been followed by a visit to the KIMC by JICA and NCPD representatives, who were given the opportunity by the Principal of the Institute to inspect the available space for both the Japanese technical and IEC personnel, as well as the various equipment for the proposed media material production facility.

I do not foresee any administrative or operational problems with using the KIMC for this production centre, since the Institute itself is participating very actively in Population communication training with generous support from the United Nations Fund for Population Activities (UNFPA), starting from mid-1989.

I therefore urge JICA to proceed with the necessary arrangement to bring the project into fruition and keep us informed.

With the best wishes.

Yours sincerely,


J. M. HUNGU
DIRECTOR, NCPD

ケニア人口教育促進プロジェクト案件について

1. 先方よりの要請の経緯

1) 急速な人口増加 年率約4% (日本は、約0.6%)

高い人口増加率は、ケニアの特に下記の分野を始めとして経済全体に対して大きな重荷となる。

保健福祉分野

学校教育

労働市場

2) イ. 1984年国家人口政策策定

西暦2000年までに、人口増加率を2.5%に引き下げること为目标。

ロ. 目的達成のための3つの戦略は次の通り。

避妊サービスの提供

母子保健水準の向上

啓蒙活動 (Information Education and Communications (IEC) 活動)

3) 日本への協力要請

1986年7月 人口家族計画分野に係る技術協力を要請 (要請内容不明確)

86年9月 コンタクトミッション

87年2月 基礎調査

88年1月 事前調査

88年12月 実施協議 (予定)

4) 協力内容

対象分野	啓蒙活動 (IEC活動)
協力期間	3年
協力対象機関	国家人口開発審議会 (NCPD)
協力形態	プロジェクト技術協力方式
具体案	広報普及用メディアの開発、制作

2. 対処方針

1) 協力対象分野 啓蒙活動 (IEC活動)

家族計画は、ライフスタイルを変えることにつながる。つまり、望ましい家族規模に関する価値観に変革をもたらすことにあるところ、ケニアではハード・ソフトの両面で脆弱であるため、日本の協力は高い効果を上げ得ると予想。

2) プロジェクトサイトの問題

NCPDは、IEC活動の核となるメディアの制作手段を有していない。NCPDは、当初、

保健省のケニヤック病院のIECセンターをプロジェクトサイトの候補地として挙げてきた。しかし、保健省との調整がつかず、9月中旬に代替案として情報省の傘下にあるKenya Institute of Mass Communications(KIMC)を、ケニア事務所に対し提示してきた。11月実施協議の前に本部より、職員を立ち寄らせプロジェクトサイトの規模、内容等について視察した結果、当プロジェクトの実施に支障がないことが確認された。しかしながら、KIMCは借物であり、今後の運営に不安が残るためR/D上で何らかの歯止めをしておくこととする。

3) モデル地区

事前調査段階では、モデル地区を設定し制作されたソフトの現場への適応を考慮したが、NCPDは現在、IECの技術者を有していない事もあり、NCPD本部の組織機能強化に全力を注ぐこととしたい。したがって、モデル地区での適用は、可能であれば次のステージで検討することとする。

4) 国際機関等との関係

NCPDは、人口戦略の効果的実施を目的として、政府・援助人口問題調整委員会を設置している。また、各援助機関/国は、援助会議(UNFPA主催)を設置しており、事前調査の段階でJICAはIEC部門で協力を開始することをコミットしており同会議で承認されている。なお、本件11月に再確認済である。

(DRAFT)
RECORD OF DISCUSSIONS
BETWEEN THE JAPANESE IMPLEMENTATION SURVEY TEAM
AND
THE AUTHORITIES CONCERNED OF THE GOVERNMENT OF
THE REPUBLIC OF KENYA
ON
THE JAPANESE TECHNICAL COOPERATION
FOR THE PROJECT OF PROMOTION OF POPULATION EDUCATION

The Japanese Implementation Survey Team (hereinafter referred to as "the Team") organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Dr. Toshiyuki Mizukoshi Professor, Faculty of Human Sciences, Osaka University, visited the Republic of Kenya from December 8 to 16, 1988 for the purpose of working out the details of the technical cooperation program concerning the Project of Promotion of Population Education (hereinafter referred to as "the Project").

During its stay in the Republic of Kenya, the Team exchanged views and had a series of discussions with the Kenyan authorities concerned in respect of desirable measures to be taken by both Governments for successful implementation of the Project.

As a result of the discussions, both parties agreed to recommend to their respective Governments the matters referred to in the document attached hereto.

Nairobi, December 1988

Prof. Toshiyuki Mizukoshi
Leader,
Japanese Implementation Survey Team,
Japan International Cooperation
Agency

Permanent Secretary, Office of the
Vice-President, Ministry of Home
Affairs and National Heritage

Mr. Kenji Kumagishi
Resident Representative
JICA Kenya Office

Permanent Secretary, Ministry of
Finance

ATTACHED DOCUMENT

I. COOPERATION BETWEEN BOTH GOVERNMENTS

1. The Government of Japan and the Government of the Republic of Kenya will cooperate with each other in implementing the Project for the purpose of promoting population education, and thus contribute to the promotion of the family planning and maternal and child health activities in the Republic of Kenya.

2. The Project will be implemented in accordance with the Master Plan which is given in ANNEX I.

II. DISPATCH OF JAPANESE EXPERTS

1. In accordance with laws and regulations in force in Japan, the Government of Japan will take necessary measures through JICA to provide at its own expense services of the Japanese experts as listed in Annex II through the normal procedures under the technical cooperation scheme of the Government of Japan.

2. The Japanese experts referred to in 1. above and their families will be granted in the Republic of Kenya the privileges, exemptions and benefits no less favourable than those accorded to the experts of third countries or of international organizations performing similar missions in the Republic of Kenya. And the privileges, exemptions and benefits will include the following:

- (1) Exemption from income tax and charges of any kind imposed on or in connection with the living allowances remitted from abroad in relation to the implementation of the Project;
- (2) Exemption from import and export duties and any other charges imposed in respect of personal and household effects, including one motor vehicle per family, which may be brought in from abroad or taken out of the Republic of Kenya.

III. PROVISION OF MACHINERY AND EQUIPMENT

1. In accordance with laws and regulations in force in Japan, the Government of Japan will take necessary measures through JICA to provide at its own expense such machinery, equipment and other materials (hereinafter referred to as "the Equipment") necessary for the implementation of the Project as listed in Annex III, through the normal

procedures under the technical cooperation scheme of the Government of Japan.

2. The Equipment will become the property of the Government of the Republic of Kenya upon being delivered c.i.f. to the Kenyan authorities concerned at the ports and/or airports of disembarkation, and will be utilized exclusively for the implementation of the Project in consultation with the Japanese experts referred to in ANNEX II.

IV. TRAINING OF KENYAN PERSONNEL IN JAPAN

1. In accordance with laws and regulations in force in Japan, the Government of Japan will take necessary measures through JICA to receive at its own expense the Kenyan personnel connected with the Project for technical training in Japan through the normal procedures under the technical cooperation scheme of the Government of Japan.

2. The Government of the Republic of Kenya will take necessary measures to ensure that the knowledge and experience acquired by the Kenyan personnel from technical training in Japan will be utilized effectively for the implementation of the Project.

V. SERVICES OF KENYAN COUNTERPART AND ADMINISTRATIVE PERSONNEL

1. In accordance with laws and regulations in force in the Republic of Kenya, the Government of the Republic of Kenya will take necessary measures to secure at its own expense the necessary services of Kenyan counterpart and personnel as listed in ANNEX IV.

2. The Government of the the Republic of Kenya will allocate the necessary number of suitably qualified personnel corresponding to each Japanese expert to be dispatched by the Government of Japan as specified in ANNEX II for the effective and successful transfer of technology under the Project.

VI. SPECIAL MEASURES TO BE TAKEN BY THE GOVERNMENT OF JAPAN

1. In order to assure smooth implementation of the Project, in accordance with laws and regulations in force in Japan, the Government of Japan will take necessary measures through JICA to support the Government of the Republic of Kenya in financing the following expenditures necessary for the training programs for middle-level manpower conducted in the Republic of Kenya:

(1) Travel allowances to and from the place of training for training

participants;

- (2) Expenditures for preparation of teaching materials;
- (3) Travel allowances for field trips for training participants;
- (4) Expenditures for the purchase of supplies and equipment necessary for training programs;
- (5) Travel allowances for instructors when they accompany training participants on field trips;
- (6) Fees for instructors invited from other institutions other than ones directly connected with the Project.

2. Support for the above-mentioned expenditures will be reduced annually. The reduced portion of the expenditures will be replaced by the Kenyan side.

VII. MEASURES TO BE TAKEN BY THE GOVERNMENT OF THE REPUBLIC OF KENYA

1. In accordance with laws and regulations in force in the Republic of Kenya the Government of the Republic of Kenya will take necessary measures to provide at its own expense:

- (1) Land, buildings and facilities as listed in Annex V;
- (2) Supply or replacement of machinery, equipment, instruments, vehicles, tools, spare parts and any other materials necessary for the implementation of the Project other than those provided through JICA under III above;
- (3) Transportation facilities and travel allowance for the official travel of Japanese experts within the Republic of Kenya;
- (4) Suitably furnished accommodations for the Japanese experts and their families.

2. In accordance with laws and regulations in force in the Republic of Kenya, the Government of the Republic of Kenya will take necessary measures to meet:

- (1) Expenses necessary for the transportation of the Equipment within the Republic of Kenya as well as for the installation, operation and maintenance thereof;
- (2) Customs duties, internal taxes and any other charges imposed on the Equipment in the Republic of Kenya;
- (3) All running expenses necessary for the implementation of the Project.

VII. ADMINISTRATION OF THE PROJECT

1. The Permanent Secretary of The Office of the Vice-President, Ministry of Home Affairs and National Heritage, as the Project Director, will bear overall responsibility for the implementation of the Project.
2. The Director of National Council for Population and Development (hereinafter referred to as "NCPD"), as the Project Coordinator, will be responsible for the administrative and managerial matters of the Project including coordination with the Kenya Institute of Mass Communications (hereinafter referred to as "KIMC") and other related institutions.
3. The Japanese experts will provide necessary technical and managerial advice for the implementation of the Project in close collaboration with the Kenyan counterpart personnel concerned.
4. For effective and successful implementation of the Project, a Coordinating Committee will be established with the function and composition as referred to in ANNEX VI.

IX. CLAIMS AGAINST JAPANESE EXPERTS

The Government of the Republic of Kenya undertakes to bear claims, if any arise, against the Japanese experts engaged in the Project resulting from, occurring in the course of, or otherwise connected with the discharge of their official duties in the Republic of Kenya except for those arising from the willful misconduct or gross negligence of the Japanese experts.

X. MUTUAL CONSULTATION

There will be mutual consultation between the two Governments on any major issues arising from, or in connection with this Attached Document.

XI. TERM OF COOPERATION

The duration of the technical cooperation for the Project under this Attached Document will be three (3) years from December , 1988

ANNEX I.

MASTER PLAN

1. Objective of the Project

The objective of the Project is to reinforce family planning and maternal and child health activities in the Republic of Kenya by promoting the activities of Information, Education and Communication (IEC) in KIMC.

2. Activities under the Project

The Project will consist of the following activities:

- 1) Research on IEC;
- 2) Upgrading technical ability of KIMC with modern equipment;
- 3) In-service training of key personnel;
- 4) Development of audio visual materials;

ANNEX II.

JAPANESE EXPERTS

1. Team Leader
2. Coordinator
3. Experts in the fields of:
 - 1) IEC;
 - 2) Family Planning;
 - 3) Maternal and child health;
 - 4) Other related fields mutually agreed upon as necessary.

ANNEX III.

LIST OF EQUIPMENT

1. Equipment for Video Studio
2. Equipment for Out-Door Production
3. Equipment for Video Editing System
4. Equipment for Audio Recording System
5. Equipment for Slide Production
6. Vehicle
7. Equipment for training

ANNEX IV.

LIST OF KENYAN COUNTERPART AND ADMINISTRATIVE PERSONNEL

1. Project Director
2. Project Coordinator
3. Director of KIMC
4. Department Head Responsible for IEC research (NCPD)
5. Department Head Responsible for IEC material production (NCPD)
6. Department Head Responsible for Video Production (KIMC)
7. Department Head Responsible for Video Crew
8. Liaison Officer (NCPD-KIMC)
9. Administrative personnel
 - (1) Secretary
 - (2) Driver
 - (3) Others

ANNEX V.

LAND, BUILDINGS AND FACILITIES

1. Land for The Kenya Institute of Mass Communications in Nairobi.
2. Buildings and facilities
 - (1) Sufficient space for the implementation of the Project
 - a) Video Studio
 - b) Video Editing Room
 - c) Workshop
 - d) Others
 - (2) Offices and necessary facilities for the Japanese experts
 - a) Japanese Expert's Rooms
 - b) Meeting Room
 - c) Others

ANNEX VI.

COORDINATING COMMITTEE

1. Functions

The Coordinating Committee will meet at least once a year, and whenever the need arises, and work:

- 1) To formulate the annual work plan of the Project in line with the Tentative Schedule of Implementation formulated under the framework of this Record of Discussions;
- 2) To review the overall progress of the technical cooperation program as well as the achievements of the above-mentioned annual work plan;
- 3) To review and exchange views on major issues arising from or in connection with the technical cooperation program.

2. Composition

1) Chairman: Permanent Secretary of The Office of the Vice-President, Ministry of Home Affairs and National Heritage.

2) Members:

Kenyan side;

- a) Director of NCPD
- b) Director of KIMC
- c) Department Head Responsible for IEC research (NCPD)
- d) Department Head Responsible for IEC material production (NCPD)
- e) Department Head Responsible for Video Production (KIMC)

Japanese side;

- a) Team Leader
- b) Coordinator
- c) Other experts
- d) Members of the team to be dispatched by JICA as necessary
- e) Resident representative of JICA Kenya Office

Note: Officials of the Embassy of Japan in the Republic of Kenya may attend the Coordinating Committee as observers.

TENTATIVE SCHEDULE OF IMPLEMENTATION
OF
THE PROJECT ON PROMOTION OF POPULATION EDUCATION

The Japanese Implementation Survey Team and the Kenyan authorities concerned have jointly formulated the Tentative Schedule of Implementation of the Project as annexed hereto.

This has been formulated in connection with I.2. of the Attached Document of the Record of Discussions signed between the Japanese Implementation Survey Team and the Kenyan authorities concerned for the Project on Promotion of Population Education, on the condition that the necessary budget will be allocated for the implementation of the Project by both sides, and that the Schedule is subject to change within the framework of the Record of Discussions whenever the need arises in the course of implementation of the Project.

Nairobi, December , 1988

Prof. Toshiyuki Mizukoshi
Leader,
Implementation Survey Team,
Japan International Cooperation
Agency

Permanent Secretary, Office of the
Vice-President, Ministry of Home
Affairs and National Heritage

TENTATIVE SCHEDULE OF IMPLEMENTATION

Year Phase	8 8	8 9	9 0	9 1	Expected output
Project preparation	—				Foundation of cooperation project
Research on IEC		—	—	—	Report on IEC activities
Installation of equipment		—	—	—	Promotion of productivity
Improvement of the capability of Media Production		—	—	—	Better Capability of production
Evaluation				—	Recommendation for future activities

REPUBLIC OF KENYA
MINISTRY OF FINANCE

Telgraphic Address
FINANCE-NAIROBI
Telephone: 338111
when replying please quote
Ref. No. EA/FA 79/78/02
and date



THE TREASURY
P.O. Box 30007
NAIROBI, KENYA

26 th February 1988

H. E. The Ambassador,
Embassy of Japan,
P. O. Box 60202,
NAIROBI

(Att:Mr. Horie)

RE: TECHNICAL ASSISTANCE TO NATIONAL
CEREALS AND PRODUCE BOARD FROM JAPAN

Following a preliminary study on possible areas of support to our population programme undertaken by a mission from Japan between 27th January, and 5th February, 1988 we would like to formally request your Government to embark on discussions and/or negotiations with us. The need for support to the programme does not require any emphasis because of its importance in the field of information, education and communication.

It would be very much appreciated if your favourable consideration is communicated to us at your earliest convenience.


(K. N. S. Kigen)
for: PERMANENT SECRETARY

THE ATTACHED DOCUMENT

1. Name of the Project
Project-Type Technical Cooperation on the National Council of Population and Development (NCPD)
2. Objective and Scope of the Project :
The object of the Project is to transfer appropriate technology to the Kenyan counterparts in the field of information, education and communication (IEC) so as to enable them to operate the IEC division of NCPD.
3. Project Implementation Agency :
The National Council of Population and Development will assume overall responsibility for the implementation of the project.
4. Duration of the Project :
The duration of the Japanese Technical Cooperation would be three (3) years from the date of signing of the Record of Discussions (R/D).
5. Experts and Counterparts :
In compliance with the request from the Kenyan side, the Japanese side dispatch experts and accept counterparts according to the plan to be agreed by both sides. For this purpose, the Team stated that the implementation Survey would be conducted in F/Y 1988
6. Allocation of Manpower and Operation Costs by the Kenyan side :
 - (1) The Team stressed that sufficient allocation of manpower and operational costs and security of IEC production facilities for the effective implementation of the project is required to be well assured by the Kenyan side.

- (2) Related to the above, the Kenyan side explained that they would make efforts to secure necessary manpower, operational budget and IEC production facilities.

7. Measures to be taken by the Kenyan Side :

In accordance with the laws and regulations in force in the Republic of Kenya, the following measures will be taken by the Kenyan side :

- (1) Land, building, facilities.
- (2) Supply or replacement of machinery, equipment, instrument, vehicles, tools, spareparts and other materials necessary for the implementation of the project other than those provided through JICA.
- (3) Transportation facilities and travel allowance for the official travel of the Japanese experts within the Republic of Kenya.
- (4) Expenses necessary for the transportation of the equipment within the Republic of Kenya as well as for the installation, operation and maintenance thereof.
- (5) Custom duties, taxes and any other charges, impose on the equipment in the Republic of Kenya.
- (6) Assignment of counterpart personnel and administration personnel.
- (7) Suitably furnished accommodation for experts.
- (8) All running expenses necessary for the implementation of the project.

8. The Team explained in detail the scheme and system of the Japanese Technical Cooperation. The Kenyan side acknowledged understanding of the scheme and system.

9. Measures to be taken by the Japanese side:

In accordance with the laws and regulations in force in Japan, the following measures will be taken by the Japanese side.

(1) Japanese Experts Survey Team would be necessary in order to survey the contents of implementation plan in detail and would in prior to the implementation survey Team be dispatched at the beginning of fiscal year 1988 if necessary.

(2) Technical Cooperation Program

a) Dispatch of Japanese Experts

i) Longer-term Experts

Details will be decided by the consultation between Japanese Implementation Survey Team and Authorities Concerned of the Kenyan Government.

ii) Short-term Experts

Details will be decided by the consultation between Japanese Implementation Survey Team and Authorities Concerned of the Kenyan Government.

b) Provision of Machinery and Equipment:

Japanese side will provide machinery, equipment and other materials necessary for the implementation of the Project.

c) Training of Kenyan Counterparts in Japan

The Japanese side will accept adequate and necessary number of Kenya counterpart personnel for training in Japan

5. プロジェクト実施上の留意点

5-1 IEC分野

IEC活動および教育メディアの定義について

本プロジェクトの内容は、IEC（情報・教育・伝達）活動であるが、まずIECという言葉について考えてみたい。

海外医療協力委員会改善検討部会の「人口家族計画の分野別協力の概要（案）」（1988年10月）では、「IEC分野の協力として人口家族計画分野における人材養成・大衆啓蒙活動を実施するために、視聴覚教育分野に必要な教材を開発し、利用する」と述べられている。具体的な活動内容として、調査研究、施設・機材の強化、人材養成、普及活動の4点が上げられている。

これをもうすこしかみ砕いて、活動に即したものとすると、次のように言うことができるであろう。「人口家族計画分野における人材養成・大衆啓蒙活動を実施するために、様々なメディアを単独にあるいは組合せて使用するための、調査研究、施設・機材の強化、人材養成、制作、実施、評価を行う活動」となる。ここで視聴覚教育という言葉が様々な教育メディアを単独にあるいは組合せて使用としているが、それは視聴覚教育という言葉がとすれば、教室内での視聴覚メディアを利用した教授活動に限定して使われる場合があるからである。IEC活動は、映画やテレビ・ラジオ放送からポスター・パンフレットそして対面コミュニケーション技法まで、さまざまなメディアを利用する活動だからである。

それでは教育メディアとはどのように考えたらよいのであろうか。「教育メディア」Educational Media は「教授メディア」Instructional Media ともいわれるが、その定義に関してはいろいろな考え方がある。一般的には教育の場で使われている視聴覚機器、即ちOHP、スライド、ビデオ、テレビ等が考えられる。しかし、米国フロリダ大学のレーサーら (Reiser, R. A. & R. M. Gagne 1983) によると教育メディアは「教育的メッセージがそれによって伝達される物理的なもの」とし、あらゆる教育メッセージを媒介するものが教育メディアとしている。つまり学校の建物、教師やインストラクターから教科書、実物、黒板、その他の教材教具すべてが含まれる。教育メディアの選択を行う目的にはこうした広い定義にしておく方が、選択の幅を広げる意味では適しているともいえる。日本では教育メディアのなかに学校施設や教師、教科書をふくめない場合が多い。また一方では、授業の設計者、実施者である教師や教育の場そのものである学校建築を教育メディアから外すのは分るが、教科書はメディアとしたほうが良いとする意見もある。つまり教科書を教えるのではなく教科書で教えるのであり、教科書も教育の手段だからである。つまり、教育する手段としてのメディアが教育メディアであるが、その中から教授者が直接・間接にそのコントロール下に置きえるものが日本で教育メディアと理解されていると考えられる。国際協力・技術協力においては教育メディアも学校・学級という枠を遙かに踏越えるので、アメリ

かで言われているような広い意味で理解しておいたほうが便利であろう。

いずれにしても、こうしたIEC活動のような実践的な概念は定義して、それにしたがって、活動するものではなく、現実のIEC活動を言表すために定義されるものであろう。その意味で、本プロジェクトの諸活動の中で、IECの中に新たな意味を付加するような活動がなされ、IEC分野に新たな1ページが開かれることが、期待されているともいえよう。

ケニアのメディアの現況

(1) ケニアのコミュニケーションメディアの状況

1) テレビ放送とビデオ

1962年にケニア放送協会からテレビ試験放送が開始され、1963年本放送が開始された。独立後の1964年放送事業が国営化されVOK (Voice of Kenya) として再出発し、現在に至る。

受信機の普及台数 7万5千 (1983年12月現在)、人口1000人当り 4.0台 (1983年)

年間受信料 3ケニアシリング (約20円)

ケニア国営放送「ケニアの声VOICE OF KENYA (VOK)」(1系統)は、情報放送省に属し、財源は国庫交付金、受信料、および広告収入である。

放送は英語およびスワヒリ語を使用。番組の約60%は国内制作番組で30%は輸入番組、10%は広告放送である。1日の放送時間は5時間30分。

人口千人当り4台の台数はアジアではスリランカ(3.3台)とほぼ同じフィリピン(26台)の1/6程度である。まだテレビそのものがステータスシンボルの状態であろう。放送開始以来20年以上を経ているながら普及状況は非常に低い。

しかしナイロビの市内のショッピングセンター内にはビデオレンタルショップがあり、洋画やインド映画のレンタルがおこなわれている。こうしたことから、近年、急速にVTRが普及していると思われる。

2) ラジオ放送

1928年イギリス東アフリカ放送会社がラジオ放送を開始、1961年にケニア放送協会が設立され、さらに1964年にVOKとなり現在にいたる。

ラジオ受信機普及台数 64万台 (1983年12月現在)、人口1000人当り34台

全国放送はスワヒリ語と英語の2系統、地域向けは3系統でそれぞれの部族語を中心とした放送を行っている。

● ナショナルサービス (全国) スワヒリ語

周波数帯 中波、短波、FM

放送時間 18時間10分/日 (土曜19時間10分、日曜17時間40分)

● ジェネラルサービス (全国) 英語

周波数帯 中波、短波、FM

放送時間 13時間30分/日 (土曜19時間10分、日曜18時間40分)

● 中部向けサービス（ナイロビから）3つの部族語およびヒンディ語

周波数帯 中波、短波

放送時間 11時間/日

● 西部向けサービス（キスムから）6つの部族語

周波数帯 中波

放送時間 11時間15分/日

● 北東部/海岸部向けサービス（モンバサから）4つの部族語

周波数帯 短波

放送時間 14時間20分/日

人口1000人当たり34台という受信機の普及状況はネパール（25台）とフィリピン（45台）の中間である。同じアフリカ諸国のなかではザンビア（27台）とジンバブエ（45台）の中間で、アフリカのなかでも非常に低い普及率である。

3) 映画

ケニア製の劇場用映画は作られておらず、映画館で上映されるのはすべて欧米、インド、香港製である。ナイロビ市内にはロードショー館が3軒、ドラマインシアターが2軒ある。その他、大衆的な映画館が10ヵ所以上有る。地方都市にもそれぞれ映画館がある。地方では週末の夜だけ上映されることが多い。

4) 写真とスライド

写真はナイロビもとより多くの地方都市にもカラー写真店があり、短時間でプリントができる。またナイロビにはスライド現像も受け付け、3日程度で仕上げる。聞くところによると、国立公園等で動物写真をスライド撮影する観光客が多いとのことであった。

フィルム等はネガ、スライドともに日本とほとんど同価格である。国際的には非常に高いことになる。

ナイロビにはコダックの代理店があり、スライドの製作、上映に必要な機器や部品の購入は可能である。日本製のスライド機器も（主にキャビン）普及している。

5) 新聞

日刊新聞としては英語紙3紙（NATION, STANDARD, KENYA TIMES）、スワヒリ語2紙（TAIFA, KENYA LEO）がある。

新聞配達制度はなく、街頭売りされている。英語紙、スワヒリ語紙ともに3ケニアシリングである。欧米の新聞は2～3日遅れで、書店やホテルで売られている。

新聞用紙の消費量は、9800メートルトン（1983年）で人口千人当りの消費量は512キログラムである。日本の1/45で、タイの1/4、スリランカの2/3で、インド（548キロ）やインドネシア（691キロ）と同程度である。

6) 書籍・出版

週刊誌は英語のWEEKLY REVIEW 誌が代表的なものである。月刊大衆誌 (VIVA, DRUM, TRUE LOVE) や専門雑誌 (AFRICA NOW, AFRICA BUSINESS, AFRICA EVENT, SOUTH) 等も出回っている。

書店はナイロビ市内には大学のブックショップのほかに数十軒あり、その他の都市にも数軒ある。書籍関係の紙の総消費量は17800 トンで人口千人当たり 936キログラムである。これもインド (1169) やインドネシア (1709) に近い数字である。

7) 図書館

国立図書館と公共図書館2つおよび大学図書館がある (1981年)。公立の図書館は組織的には一つだが、幾つかのランチに分かれているようである。公共図書館の総冊数は 270万冊、登録借用者数は約10万人である (1981年)。日本の公共図書館は1028館で登録借用者数は1095万人である (1983年)。

8) 通信

電話の加入者は10万人、電話機の総数は24万で人口1000人当たり12.7台である。電話のほとんどはナイロビとモンバサにあり (81%) 地方には少ない。市内に限られた地域からはダイヤル国際電話もかけられる。一方公衆電話の数は都市の中心部にしかなく極めて限られている。公衆電話料金は1度数1ケニヤシリングである。現在電話交換機の設備は非常に不足しており、設置申込から2～3年かかるといわれている。

郵便は郵便局留の形式が一般的で配達サービスは行われいない。いかなる郵便物も局に取りに行くことになる。国内郵便料金は20グラムまで1ケニアシリングである。

9) メディアをめぐる環境

ナイロビ市内やいくつかの地方都市には電気があるが、多くの農村にはまだ電気が引かれていない。また市内の電圧は不安定で、パソコンやビデオには安定化電源が必要である。

文盲率に関しては正確な資料が入手できなかった。小学校の不就学率が58.6% (ユネスコ1979年) から類推して、まだ識字率は高くないと考えられる。他のアフリカ黒人国家がすべて50%以上の文盲率であることから、現在のケニアも50%の識字率からそう遠くないと考えて良いであろう。

(2) ケニアの人口教育家族計画活動に於けるメディアの利用

ケニアにおける各種メディアを利用した人口家族計画分野の I E C 活動は、非常に多くの団体によって多層的に行われている。1987年に行われた基礎調査によれば I E C 活動を実施または活動を予定している団体は18である。活動内容は様々であるが、いずれの団体も単一のメディアによるよりも、幾つかのメディアを組合せた活動を展開している。

1984年の調査によれば家族計画に関して何らかの知識のある人は8割に達している。

この数字はネパールにおける J I C A の人口家族計画第2次基礎調査における89.5%と同様の

数字である。また、ネパールの場合には家族計画を実施中ないしは実施したことのある人はそのうちの1/4であった。ケニアでもこの事情は変わらないと想像される。

これは人口問題や家族計画情報の伝達に関しては、IECは一定の成果を上げていると考えることができる。しかし、基礎調査報告書のなかで述べられているように、避妊に関する噂や憶説が流布している現状は、IEC活動のなかに人々の不安を解く努力が不十分であったこと、男性に対するプログラムの欠如、識字率の低い地域に対する取組み等、IEC政策上の課題は多い。またメディアの選択、メッセージの内容と対象の関係、メディアに対する住民のイメージ、メディアとの接触状況、映像に対する住民の認知能力等、教育工学的および教育心理学的な取組みがなされていないことも課題であろう。

1) 印刷メディア

家族計画における印刷メディアの利用はポスター、パンフレット、新聞等に分けることができる。

● ポスター

多くの団体がポスターを制作している。一般的な啓蒙や対象を絞ったものまでいろいろである。かつてはポスターも海外からの援助であったが、近年はケニア国内で、ケニアのデザイナーによるものがほとんどである。印刷もカラー多色刷りで美しいものも少なくない。しかし、スローガンや団体の宣伝的なものも多く、どこまでメッセージとして有効か疑問なものも多い。

ポスターの重要性は今後も変わらないであろうが、目的の明確化、効果の測定、他のメディアとの有機的な繋がり等の努力が必要であろう。

● パンフレット

非常に多くのパンフレットが各団体によって作られている。家族計画協会では数種類のパンフレットを各家庭を訪問するケースワーカーに持たせて、必要に応じて配付している。内容は人体の構造や生殖器官の働き、避妊器具の使い方等を解説してのものである。カラーを使用したものは少ないが、図版を多用し理解を図っている。

2) ラジオと録音教材

NCPDでは、世界銀行の援助で1986年から家族計画啓蒙のためのラジオ放送を行っている。製作はアンドリュウ・クロフォード・インターナショナル社に依頼し、完成したテープを完パッケージ（完全パッケージの状態、そのまま放送できるテープ）でケニア国営放送に送って、放送をしている。

幾つかの団体では家族計画の歌を制作しており、事前調査でカカメガ地区でケニアキリスト教協議会傘下の協会聖歌隊のものを聞いたことがある。こうした家族計画の歌のコンテストがあり、テープに記録されている。

3) テレビとビデオ教材

現在は使われていない。NCPDでは海外からの援助によってテレビを使った活動を開始することを計画中である。現在はアメリカの財団の援助によってケニア内のアメリカ系ビデオ制作会社カメラピックス社に依頼する予定とのことであった。

4) 演劇、歌

NGOを中心に、人口家族計画の歌の作詞作曲および演奏が行われている。婦人団体や家族計画関係の団体の会合には必ず歌われるとのことである。また全国的なコンクールも行われるとのことであった。また歌とともに、子供たちによる寸劇も活発に行われている。

(3) 考察：ケニアにおけるメディアの特徴と人口教育における今後の利用の可能性

ケニアではテレビはもとよりラジオもまだ十分に発達しておらず、新聞や雑誌等の都市部を中心とした狭い範囲での流通を考えると、マスコミュニケーションの発達段階は非常に低い。農村部ではこうしたメディアによる情報の少なさを補うために、対面コミュニケーション、つまりケースワーカーや普及員による活動が活発に行われている。また地域の住民の活動もさかんである。しかしその反面、こうした地域に根ざした活動の指導者層が、まだ伝統的な価値の担い手ないしは長老的な人物が担っており、人材が十分に育っているとは言い難い。また指導者を育てる適切な訓練機関や機会も少ない。

一方都市部ではラジオ、カセット、ビデオといった電子メディアが急速に身近なものとなっている。その反面、組織的な社会教育活動が十分に行われていない。

そのため人口教育関係のIEC活動が一定程度の成果をおさめ、家族計画に関する知識の伝達には成功したが、家族計画の実施にはいたらず、また家族計画の概念が伝統的な価値観とあいだにコンフリクトを起こしているのが現況ではないかと推測される。

NCPD等のIEC活動もケニアのメディアの分析から行われているのではなく、実践的な要求から目標達成のために、手をつけられるものはすべてやるという対症療法的な側面が強い。

そこでこれからのIECは今までの活動の方向をそのまま量的に拡大することではなくて、質的に変えていく必要があるだろう。つまり、いろいろなメディアが急速に人々の前に出現している段階で、各メディアに対する態度の問題（メディアにたいする先有知覚）、映像や音声の認知の問題、住民のメディア環境、地域の家庭の社会的経済的分析等のメディアを中心にした住民の分析を行う。またケースワーカーやキーパーソンのコミュニケーション活動の現状と問題点、教師教育や学校教育における人口教育の現状等の人口教育の担い手の分析が必要になろう。

そして住民に対しては、幾つかのプログラムを作成して評価を行い、IECの実践的な活動と評価、制作物の質的改善を行う。また人口訓練カリキュラムの作成、訓練教材作成等人口教育の担い手に対する訓練を実施する必要があるだろう。

プロジェクトの実施体制

KIMCの概要と本プロジェクトにおける役割

本計画に関し事前調査時点ではプロジェクトファシリティーサイトとしてケニヤック記念病院

内の保健省教育メディアセンターが考えられていた。しかし、保健省とNCPDとの調整がつかず、同センターは使用できなくなった。NCPDより昨年10月に情報放送省所轄のケニアマスコミュニケーション研究所（以下KIMC）がサイトの候補として報告があり、今回の調査では、KIMC所長及び人口教育担当専門官にインタビューを行い、さらに同研究所を訪問調査した。

KENYA INSTITUTE OF MASS COMMUNICATION は情報放送省に所属するマスコミに係わる人材の養成機関である。KIMCの概要を調査団の訪問調査とインタビューに基づいて述べる。

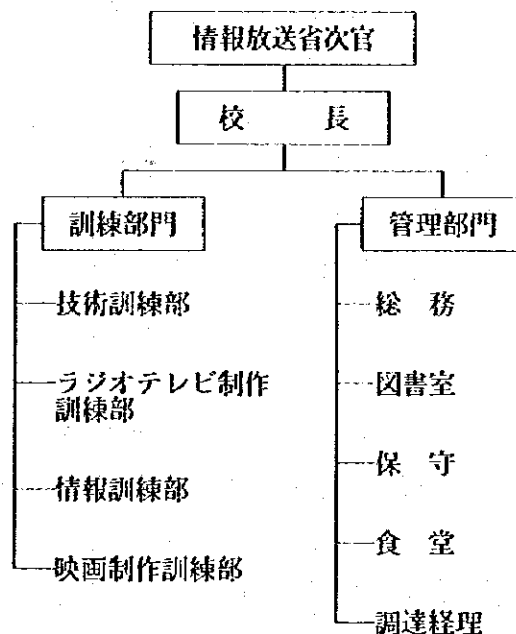
1) 目的と設立の経緯

KIMCは1961年にケニア放送局（KENYA BROADCASTING CORPORATION）の技術者の訓練機関として発足した。1963年のケニア独立にともない放送局はケニアの声（VOICE OF KENYA）となり情報放送省の所轄となり、KIMCもその傘下に入ることとなった。1965年「ケニアの声訓練学校」としてケニヤック国立病院の近くの木造校舎で再出発した。電気電子部門の訓練だけでなく、制作部門の訓練の必要性が高まり、1967/68年度から新校舎の建設と新しい訓練コースの開発が行われることとなった。1969年に番組制作コース、1970年に情報コース、1975年に映画制作コースが始められた。現在は480人の訓練生がいるが、ケニアばかりではなく、近隣諸国からの訓練生も多い。これはKIMCが東アフリカおよび中央アフリカにおける唯一のメディア制作に関する、実践的な訓練機関だからである。

本研究所の目的は、メディアにかかる就業前教育と現職教育を実施することとされており、コースの対象はアシスタント情報官および上級技術者、技術者、映画制作者、ラジオテレビ制作スタッフである。またこうした通常のコースの他に国際機関や各国政府の要請に応じて、幾つかの特別コースを実施している。

2) 組織

情報放送省の次官のもとに校長がおかれ、4つの訓練部門および管理部門がある。



3) 実施しているコースの内容

A. 技術訓練部

KIMCで最も古い部門であり、放送局の制作技術者およびスタジオのテクニカルオペレーターの養成を行っている。

イ) アシスタントインスペクター/電子(電子部門補助監督者)コース

3年間のコースでケニア国家試験協議会技術者コースの通信電子理論(No.2022)をカバーする。訓練内容は放送局のスタジオ技術、テレビ基礎、ラジオテレビ送信、デジタル技術、マイクロウェーブ等である。

ロ) スタジオテクニカルオペレーター(スタジオ技術者)コース

2年間コースで、ラジオ/テレビの放送局における実践的な操作を学習する。

以上の2つのコースで学習する内容は以下の通りである。

数学、安全規則、音声、照明、ワークショップ実習、テレビ基礎技術、テレビ送信、テレビ受信、デジタル技術、マイクロウェーブシステム、写真電子、テレビカメラ、ビデオ録画システム、ラジオ送信、カラーテレビ実習、写真实習、映写機実習、映画カメラ実習、スタジオ実習、研修旅行等

ハ) 現職コース

必要に応じて開催している。

B. ラジオテレビ制作訓練部門

イ) ラジオ制作コース

2年間コースで、ラジオ制作に係わる実践的な訓練を行っている。制作機器の操作および制作技法について全般的な教育を受ける。

コースの内容はタイプライター、ケニアの放送局の歴史と発展、マスコミ理論、ニュースとイベント、農村コミュニケーションと開発計画、国家開発におけるプライオリティー、調査研究方法、著作権、報道法と自由等である。

ロ) テレビ制作コース

2年間コース。コース終了時にテレビの企画、カメラリハーサル、録画、ポストプロダクションに関する業務ができるように訓練する。番組の形式としてはインタビュー、パネルディスカッション、音楽、ドラマ、子供番組、バラエティー、ニュース、教育番組等が含まれる。

ハ) 現職訓練コース

必要に応じて開催

C. 情報訓練部

1970年に始った部門で、政府の各機関の情報官の養成を行っている。

イ) 職業前訓練コース

放送局や通信社、雑誌社のジャーナリスト養成コースである。

ロ) 現職訓練コース

主に情報放送省傘下の情報官の訓練であるが、外務省の情報部門、大統領府報道部、副大統領府報道部およびナイロビに本社を持つ通信社等のスタッフの訓練も行っている。

以上のコースの内容としては、理論と実習が含まれ、ジャーナリズムのディプロマを付与できる内容となっている。つまり、ニュース記事作成、特別記事作成、写真、広報、宣伝広告、放送報道、編集と印刷、マスコミ理論、コミュニケーション研究調査、コミュニケーション法と農村における報道活動、語学とタイプライター。1987年から2年間のディプロマコースにはフランス語を科目に加えることになっている。また途中に6ヵ月間、研修生（インターン）として国内の幾つかの部局で仕事をする。

D. 映画制作訓練部

最も新しいコースで1975年に確立された。主にケニア国営放送のドキュメンター部門、ニュース部門および大統領府の映画部のスタッフ養成が主な目的である。その他、このコースの卒業生は教育省、農業省、保健省、観光省等の映画制作に係わっている。

1975年に西ドイツのフリードリヒ・エバート財団からの援助によって人材養成と機材設備が行われた。

イ) 映画制作訓練コース

2年間のコース。映画制作コースにはいるには大学の学位が必要である。しかし、必ずしもマスメディア専攻である必要はない。他の技術者コースはケニア教育資格KENYA CERTIFICATE OF EDUCATIONが必要である。必要な合格科目は英語、スワヒリ語、その他の外国語、経済、物理、化学、数学である。

ロ) 現職訓練コース

アドホックにコースを開催している。内容はフィルムアニメーション技術、オブチカカル技術、カラー映画映写技術、映画機器保守である。

4) 建物と施設

KIMCのキャンパスは大きく3つに分けることができる。

A. 管理およびテレビスタジオ棟

KIMC設立当初からの建物で大分老朽化している。そのなかに管理部門、図書室、講義室、テレビスタジオ、調整室、会議室等がある。テレビスタジオの機器はかなり古いが、学生の実習には、まだ使用可能である。ちなみにスタジオカメラはフィリップスのプランビコン三管式である。しかし、性能的に番組制作やこのプロジェクトのための制作は不可能であろう。特にスタジオの照明設備等は老朽化が激しい。建物自体の痛みもひどくスタジオ内、廊下の床も平面では無くなっている。

B. 映画制作訓練棟

新設の建物であり、機器は西ドイツからの援助によるもので、映画制作コースとしては非

常に充実している。棟内には撮影スタジオ、調音室、音声編集室、録音室、現像室、アニメーションスタジオ、オプチカル処理室、オフィス、教室等がある。各種の機器は業務用の信頼性の高いものであり、欧米の映画スタジオ（特に音声関係）とまったく同じレベルである。

C. 多目的棟

現在建築中であり、1988年の末に完成予定と聞いていたが、われわれが訪問した時点で（1988年12月）外壁の石積みがなんとか終了したところであった。この予定では完成は1989年の半ばまでかかるのではないと思われる。この建物はKIMCの長期計画に基づき、教室、ラジオスタジオ、宿舎等が予定されている。現在の図書室は50名しか収容できず、また宿舎の収容能力は96名しかない。

本プロジェクトに対するスペースの割当ては、当然この新しいビルになる。校長からはスペースに関しては十分検討の余地が有り、調査団に対し最大限の努力をする旨の発言があった。具体的なスペースに関しては、専門家および調整員によってなされねばならないが、専門家室3室、会議室、ビデオスタジオ、ビデオ編集室、録音室が必要であることを伝えた。これらのスペースには十分であると考え。また完成以前については、管理棟の一部を使用可能である旨、発言があった。

5) 本プロジェクトにおけるKIMCの役割

KIMCの活動、施設は上記のとおりで、メディア関係の訓練機関としては充実していると考えられる。ただし、半日の訪問であり、実際のマンパワーについては十分に調査できていない。われわれが接することのできた、オシアコ校長および人口コミュニケーション担当のオキテ部長らは、見識、語学、態度ともに非常に優れている。

本プロジェクトにおけるKIMCは、NCPDの人口教育に関するメディア制作を日本側と共に実施することになる。そのため、IEC専門家のカウンターパートはNCPDおよびKIMCから複数の人材を得ることが望ましい。またIECに関する技術協力において、KIMCの映画制作技術は十分と考えられるため、それ以外のメディアを中心に技術移転することになる（ビデオ、ラジオおよびスライド等）。映画制作に関してはKIMCの経験及び既存の人材を有効に使うことが必要であろう。

(3) KIMC/UNFPAプロジェクトについて

現在KIMCはUNFPAからの援助によって人口コミュニケーション訓練プログラムを実施中である。これは1988年（当初1987年からであった）からの1992年の4年間で総額558,775米ドル（約7000万円）でケニア及び東及び南アフリカ諸国での人口コミュニケーション訓練を実施するものである。

中心的なものはKIMCに人口コミュニケーション部門を設立し、KIMCの訓練科目に人口コミュニケーションに関する訓練を導入することである。そのためKIMCに5人のスタッフを置き、ビデオを中心とした機材が供与される予定である。

人口コミュニケーション部門のスタッフは既に決定しており、準備が始められている。
スタッフは次のとおりである。

① プロジェクトアドバイザー、KIMC人口コミュニケーション部長

オジアンボ オキテ ODHIAMBO OKITE

インターアメリカン大学 (プエリトリコ) ジャーナリズム学士

ウィートンカレッジ (アメリカ、イリノイ) 神学修士

② 人口コミュニケーション研究 (印刷/情報)

ジュディス オゲチャ MISS JUDITE OGECHA

経済学士、人口学修士

③ 人口コミュニケーション研究 (ラジオメディア)

マツ ングリ MATU NGURI

広報学士 (ダルエスサラーム大学)

社会学修士

④ 人口コミュニケーション研究 (映画/テレビメディア)

グレッグ アダンボ GREGG ADAMBO

社会学学士 映画ディプロマ (KIMC)

⑤ 人口コミュニケーション研究 (ノンコンベンショナルメディア)

ヨセフ ディクソカ JOSEPH DHIKUSOKA

マスコミュニケーション学士 (アイオワ州立大学)

マスコミュニケーション修士 (アイオワ州立大学)

機材の主なものは、

タイプライター (IBM)	1
複写機 (キャノン)	1
簡易印刷機 (GESTETTNER)	1
パソコン (COMPAC)	1
3管式ビデオカメラ (ソニー-BVP-3AP)	1
UマチックハイバンドポータブルVTR (ソニー-BVU-150P)	1
Uマチック編集機 (ソニー-BVU-870)	1

プロジェクトレポートに見る限りでは予算のほとんどは人件費である。そのため視聴覚機器、特にビデオ関係の機器は中途半端でこれだけでは制作できない。KIMCにある既存の機器と接続して制作すると思われるが、システム的に無理が有る。

このUNFPAプロジェクトはKIMCに対する人的資源の強化が第一に考えられ、次にKIMCを中心とした人口コミュニケーションに関する訓練用のカリキュラム開発を考えているように思われる。我が国のプロジェクトとことなり、人口教育や家族計画活動を行っている

人が対象ではなく、コミュニケーション活動を実践する人々に対する人口に関するコミュニケーション訓練活動を中心としたものである。

いずれにしろUNFPAプロジェクトによってKIMCの人口コミュニケーション部門の人的強化が成されたことは、本プロジェクトにとって有効に働くことになる。

実施計画と課題

本プロジェクトのカウンターパート機関はNCPDであるが、IECメディア制作の実際はKIMCが行い、プロジェクトサイトもKIMCになる。そこでNCPDとKIMCのプロジェクトにおける明確な区分けが必要になる。つまりカウンターパートをはじめとする人材、一般的な経費負担、制作した作品の著作権等である。これらはチームリーダー、専門家および調整員によって具体的に考えられるべきものであろうが、考えを整理する意味で以下に表にした。

	NCPD	KIMC
－カウンターパート		
チームリーダー	所長	
IEC専門家	IEC部長	人口コミュニケーション部長
調整員	IEC部長	人口コミュニケーション部長
－IEC研究スタッフ		
短期専門家	IEC部職員 大学関係者	人口コミュニケーション部職員
－IEC制作スタッフ		
プロデューサー	IEC部長 IEC部職員	人口コミュニケーション部長
技術スタッフ		各部職員
－IECメディア評価		
短期専門家／調査団	IEC部長 大学関係者	人口コミュニケーション部長
日常一般経費		○
制作経費	○	
制作著作権	○	
機材の所属先	○	○

(1) 実施計画について

1) IEC研究

これまでの人口教育・家族計画におけるIEC部門には2つの問題点があると考えられる。一つは各団体の情報交換や技術交流がなく、活動、調査、研究がばらばらに行われていることである。そのため量的には沢山のIEC活動が行われているにもかかわらず、対象が偏ったり、メッセージの内容が不十分であった。いま一つはIECの対象である住民のメディア環境や映像認知に関する調査研究、また制作されたメディア作品の評価やIECの効果の測定研究等が十分になされていないことである。

そのため本プロジェクトの当面の課題は各団体で実施された、また実施されているIEC活動に関する情報の収集および情報交換、活動の評価である。これは政府による人口問題調整委員会等の場が重要である。さらに人口問題に関するIEC部門の東アフリカを中心とした研究を収集分析する必要がある。

次に本プロジェクトによる調査研究としては、住民のメディア環境調査や映像認知の問題が考えられる。こうした調査は全国規模で実施することは難しいので、いくつかの地域を決めて実施することが望ましい。そのために小調査を試行して、調査の内容や地域を決める必要があろう。

2) IEC制作

これまでのNCPDのIEC分野での活動は、印刷メディアとラジオ番組制作が主で、テレビ放送は極めて少数の番組の提供しかしていない。またNCPD自身は、IEC活動を大きな柱としているが、現在のところ制作部門を持っておらず、制作は外注（主にポピュレーションメディア社）している。そこでIECの制作技術に関してはKIMCを中心に展開することになる。本プロジェクトにおけるIEC制作活動は、基本的にはIEC研究活動に基づいて、IECメディア活動の効果測定を視野に入れたものである。つまり形成的な制作が中心となり、マスメディア的な制作はプロジェクト後半において展開することになる。

しかしながら、ケニアの人口教育に関する強化措置として、NCPDおよびKIMCのメディア制作能力を強化することも必要である。

以上の観点から本プロジェクトにおけるIEC制作の各部の実施計画を考える。

● 印刷メディア制作

KIMCの印刷機器はオフセット単色印刷までのシステムである。この部門のリノベーションは印刷機器のカラー化およびワードプロセッサの導入等が考えられる。しかし、家族計画関係ではAMREFが大きな印刷工場を持っており、そこと競合することになるので、慎重に対処する必要がある。しかし、印刷メディアの重要性にかんがみ、ワードプロセッサ機能を持ったタイプライターとパソコン、および複写機は早期に導入する必要がある。カラーオフセット印刷のシステムに関してはプロジェクトの活動状況をみながら協力期間の

後半に導入するべきと思われる。KIMCにはこの部門の人材が不十分なので、機材の導入にあわせて人材養成が必要になる。これはケニア国内で十分可能と思われる。

● ラジオ番組、録音教材制作

ケニアではラジオ番組やスライドの音声テープ、音楽活動の録音等で重要性の高いセクションである。現在設置されている機器は放送用機器で十分に耐えるが、数量が十分出ないため、既存の機器との整合性を考慮しつつ充実させる。しかし、野外録音用機器や集会のためのPA機器が不十分である。BGM用の音楽や効果音については、かなり充実しているが、最近発達したCDはまったく導入されていない。このセクションの充実は、音声メディアのみならずテレビ制作や音声スライド制作の質の向上に寄与するところが大きいので、プロジェクトの早い時期に機材の導入、技術移転が図られるべきであろう。

● テレビ番組、ビデオ教材制作

ビデオが急速に普及しはじめており、今後力を入れていくメディアと考えられる。前項でも述べたように、現在のKIMCのテレビスタジオは訓練用であって、機器も非常に古い。そこで、ここにビデオシステム一式を導入することになるが、今後テレビ放送への番組やスポットの提供および作品のディストリビューションを考えると、放送用の3管式カメラとベータカムシステムおよびUマチックハイバンドシステムが適していると思われる。また人材の養成も急務であろう。

● 写真・スライド制作

これまではNCPDの各種の展示会や印刷物の写真の制作はすべて外注であった。またKIMCではスライド制作は行っていない。しかし、ビデオや映画のカメラマンはおりその能力も高いと思われるので、撮影そのものより教材スライド制作に関する技術協力が必要と思われる。

● グラフィックデザイン

ある程度の機材と人材とも揃っているため、特に技術協力がなくとも他の部門の活動が軌道にともなって、活動できると思われる。

3) 研修訓練活動

家族計画に関する研修は政府団体とNGO関係の諸団体が行っている。またKIMCも新しいIEC部門の教育訓練活動を組織的に行おうとしている。しかし、これまでのところ、システムティックな教材開発や研修訓練方法の研究や評価はほとんど行われていない。ケニアの状況にあった教材開発がなされておらず、ケニアで開発されたフィルムやビデオ、スライドは皆無であるといえよう。その意味で本プロジェクトに対する期待は大きいと思われる。またプロジェクトで制作した教材や広報資料の有効活用のためには、研修訓練実施機関に対する機材供与や指導が必要と思われる。

5-2 MCH分野

1) ケニアの人口の推移と現状 (人口・家族計画関連データ源を中心に)

ケニアは、人口統計、疫学データが他のサハラ以南アフリカ諸国と比較してかなり豊富であり(※1)、データに基づいて人口・家族計画活動を計画/実施/評価していくための基礎的条件は比較的整っているほうであると思われる。

人口・家族計画に関係する全国レベルのデータ源としては、1948年、1962年、1969年、1979年の4回のセンサス、1977年のNDS (National Demographic Survey)、1977-78年のKFS (Kenya Fertility Survey)、1984年のKCPS (Kenya Contraceptive Prevalence Survey)がある(※2)(※3)。NDS、KFSについては、NISSP (National Integrated sample Survey Programme; 1974年に、Central Bureau of Statisticsが設立した、長期にわたり多目的なサーベイを全国レベルで行うための機構)の枠組みのなかで行われたものである(KCPSについては不明)。同じくNISSPの枠組みのなかで行われた調査に、1974-75年、1976-77年、1977年-78年、1978-79年の4回のIRS (Integrated Rural Surveys)がある。IRSからは、サンプル家族の構成員についての情報、財産・農業生産に関する情報等が得られる(※4)。その他関連する情報源としては、死亡登録 (Registrar General が所管、網羅性という点では不完全)及びMOH (Ministry of Health) のhealth information statistics(1975年～)がある(※5)。

表1は、4回のセンサスによる人口の基本統計である(※6)。図1は、1900年からの人口、出生率、死亡率の推移をグラフで表したものである。(センサス年以外のデータ推計法は不詳)(※7)。また、表2は、母の年齢別の出生率とその年次推移を見たものである(※8)。

これらのセンサスや調査で得られたデータは、人口の将来推計にも用いられている。表3は人口の将来推計の一例である(※9)。人口の将来推計は、ケニア政府の人口対策のプランニングに広く利用されている。たとえば政府の現在の開発計画(1981-88)のなかでは、人口増加率を1981年の3.8%から1988年には3.3%にすることを目標としているが、そのためにはどの程度の避妊法の普及が必要とされるかという計画には主として1979年のセンサスのデータを利用した推計が用いられている(※10)。

出生率についての将来推計としてはたとえば表4のような数字が示されている(この数字は家族計画プログラムの効果をかなり見込んだ上での推計のようである)(※11)。

ケニアの人口政策には次節で触れるが、その策定に際しては、上に例示したように、種々の調査の結果が幅広く利用されている。

(REFERENCE)

(※1) Ewbank, D. and others. 1984. An integration of demographic and epidemiologic research on mortality in Kenya. (UN-published paper), 33-85. P.33.

(※2) Ibid. pp.34-35.

(※3) Muganzi, Z. 1988. Fertility and mortality trends in Kenya. in "Kenya's population

growth and development to the year 2000 AD" Chapter 4, pp.31-39.

(*4) Ewbank, D. op. cit. p.34.

(*5) Ibid. p.35.

(*6) Muganzi, Z. op. cit. pp.31-36. (Original data source is the Central Bureau of Statistics publications.)

(*7) Ibid. p.35.

(*8) Ibid. p.36.

(*9) Ibid. p.37.

(*10) National Council for Population and Development(NCPD) .1981. "Population Policy Guidelines. Sessional paper No4 of 1981." pp.36-39.

(*11) Muganzi, Z. op. cit. p.38.

表1

Census Year	Total Population Size	Crude Birth Rate (CBR)	Crude Death Rate (CDR)	Rate of Natural Increase (RNI) %	Infant Mortality Rate (IMR)	Life Expectancy at Birth (L. E.)	Total Fertility Rate (TFR)
1948	5,405,966	50	25	2.5	184	35	6.0-7.0
1962	8,636,263	50	19	3.0	174	40-45	6.8
1969	10,942,705	50	17	3.3	119	M=47 F=51	7.6
1979	15,327,061	51	14	3.8	81	M=51 F=56	7.9
1985 [†]			12		82	M=57 F=60	

† Estimates.

..... Source: Estimates from
Various Census Reports.
Central Bureau of
Statistics, NAIROBI.

表2

Age-specific fertility rates from data on women bearing children 12 months before the census survey 1962-1984.

Age	1962 Census	1969 Census	1977 NDS	1977-78 KFS	1979 Census	1984 KCPS
15-19	0.083	0.111	0.135	0.177	0.098	0.143
20-24	0.207	0.284	0.355	0.369	0.264	0.358
25-29	0.223	0.290	0.361	0.356	0.276	0.338
30-34	0.203	0.253	0.316	0.284	0.226	0.291
35-39	0.163	0.200	0.231	0.216	0.216	0.233
40-44	0.109	0.121	0.133	0.132	0.091	0.109
45-49	0.063	0.060	0.056	0.051	0.041	0.066
Total Fertility Rate =	5.3	6.6	8.0	7.9	5.9	7.7

Source: Central Bureau of Statistics (No date) table 6.10.

表 3

Projected population totals 1980-2000. (Rounded to 000). Under varying assumptions.

Year	Declining Fertility & Mortality	Constant Fertility Declining Mortality	Constant Fertility Constant Mortality
1980	16,667	16,667	16,667
1985	20,241	20,365	20,333
1990	23,397	25,034	24,872
1995	29,237	30,956	30,522
2000	34,792	38,409	37,505

Source: Kenya: Population Projections for Kenya 1980-2030. UNICEF, March 1983.

表 4

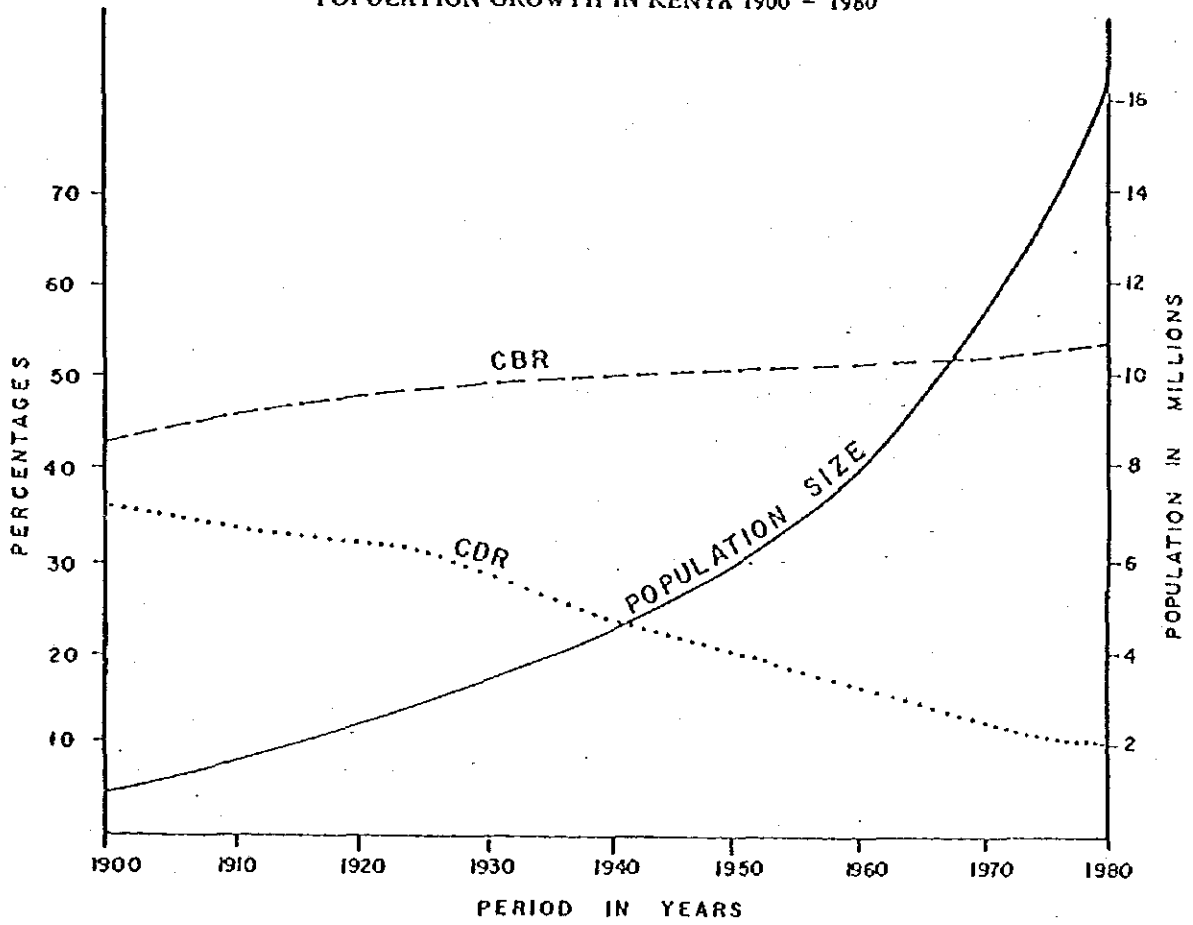
Age specific fertility rates for Kenya 1980-2000

AGE GROUP	1980	1990	2000
10-14	3.1	1.2	0.4
15-19	179.5	138.4	105.4
20-24	367.7	328.5	287.6
25-29	372.0	334.8	294.4
30-34	310.6	268.1	226.7
35-39	225.7	181.4	143.7
40-44	104.9	75.4	54.1
45-49	13.9	8.3	5.1
TOTAL	7887.0	6680.5	5587.0

Source: Kenya: Population Projection for Kenya 1980-2000 CBS, Table 4, P. 10 Ministry of Economic Planning and Development, 1983.

图 1

TRENDS IN THE CBR, CDR AND
POPULATION GROWTH IN KENYA 1900 - 1980



2) ケニアの人口対策の進展と人口政策の現状 (注1)

(1) NCPDの設立以前

1948年のセンサス時に急速な人口増加の事実が示され、当時の植民地政府はすでに医療従事者に、家族計画サービスを行うよう呼びかけている。

近代的避妊サービスの提供を目的とするNGOであるFPAK (Family Planning Association of Kenya) の母体は1950年代後半から形成され始め、1962年にFPAKはIPPFに加盟した。

1965年、ケニア政府は、“African Socialism and its Application to Planning in Kenya”と題する文書を以て全般的な経済開発戦略を示したが、その中ですでに高い人口増加率に対する懸念が表明されている。

1966年、人口問題の現状分析と政府への政策提言を目的とするPopulation Council Advisory Mission が招かれ、翌1967年、National Family Planning Programmeが開始された(サハラ以南のアフリカで最初の家族計画プログラム)。

このプログラムの中で家族計画事業は母子保健事業と抱合せて実施されることとなり(背景に、母子の死亡率・疾患率の低下が、ひいては出生の低下につながるという考えがあった) Ministry of Health(MOH) の所管とされた。1968年から家族計画に関する臨床的サービスはMOHのクリニックで供給されるようになった。(当初は、15-45歳の既婚女性が対象であったようである。MOHのクリニックでは臨床的サービスは無料、民間のクリニックでは有料であった。なお、1979年からは、MOHのクリニックの臨床サービスは、年齢や、既婚か未婚かということをおろそかに供給されるようになった。)しかしサービス供給のための基盤が未整備のため、MOHは家族計画事業の遂行に当りFPAK等のNGOや外国人スタッフに大きく依存していた。

1969年のセンサスでケニアの高い出生率が再確認されたのを受け、政府は母子保健・家族計画事業実施のための組織的枠組づくりのプログラム(1975-79年; 第3次Development Planの期間に相当)を開始した。このプログラムの目的は、(1)MCH/FP Service Delivery Points(サービス供給拠点)を設立すること、(2)ヘルスワーカーに家族計画実施のためのイン・サービス・トレーニングを、また、MCH/FPクリニックに駐在してIEC活動を行うFamily Health Field Educators (FHFE)のトレーニングを行うこと、(3)情報・教育施設の数を増加させること、(4)研究・評価施設を強化すること、であった。このプログラムの実施に際し、年間の人口の自然増加率(RNI)を3.3%(1975年)から3.0%(1979年)に減らす(これは、64万人の家族計画新規受容者を獲得することによって15万の出生を防止することにより達成されるとされた)ことその他、地域のサービス供給施設設置(400のクリニックを設置する)、マンパワーのトレーニング等についての目標数値が定められた。(数値を定めての家族計画プログラムの目標設定はこのときが最初。なお、このときに、2000年にRNIを2.8%(現在では

2.5 %に変更されている) にするという長期目標も設定された。) 同時に、母子の死亡・疾病り患、栄養不良を減らすこともプロジェクトの目的とされた。

1979年にはNational Family Welfare Center (現在、MOHのFamily Health Divisionとなっている) が設立された。1978年末までに全国にクリニックとFamily Health Field Educatorsが配備された。(一部のサービス供給拠点はフルタイム開設、一部はパートタイム開設であった。一部民間機関のクリニックもあったが、大半は政府の経営によるものであった。) MCH /FPクリニックが病院、施療所のほかpublic health centers、subhealth centers、mobile clinic等に設けられた。

I E C面では、1970年代にFamily Health Field Educators の職種が設けられ、MOH、FPAKは彼らを活用してI E C活動をすすめた。

1975-79年の母子保健・家族計画プログラムは、72%の妊婦と19%の5歳未満の子供に何らかの形でサービスを供給したと推定され、サービス供給の基盤整備に向けてかなりの進歩をもたらしたと評価されたが、1979年のセンサスでは人口の自然増加率は3.8%と逆に増加した。

1970年代のころまではすべての避妊サービスはもっぱら医療施設を通じて行われていたという。1970年代末から1980年代初めにかけて行われた調査で、家族計画への国民の認識の高さに比べて実際の家族計画利用者が少ないことが指摘され、政府はサービス供給の場が少なすぎるのが原因と考え、利用可能なあらゆるサービス供給の場を利用することになった。開業している医療従事者が活用されるようになった他、民間会社で医療施設をもつものは、その施設を家族計画にも利用するよう求められ、そのためのスタッフのトレーニングはAMREFで行われた。この活動の資金は、USAIDのFamily Planning in the Private Sector Project を通じて出資された。

また、避妊具(薬)の供給については、当初、コンドーム、フォーム、ゼリー等は薬局等を通じて供給され、ピル、IUD等は医療従事者の処方が必要とした。後に、コンドーム、フォーム等をピルは地域内のオピニオンリーダー、商店、エクステンシブ・ワーカーを通じて供給されるようになったきており、(後述するCBDプログラム)、インジェクティブル(ホルモン剤注射による避妊法)や不妊手術は従来どおりクリニックで行われるという形になってきた。

さまざまな努力にもかかわらず、人口の増加率は下がってこなかった。NCPDがまとめたペーパーの、人口対策の経緯を述べた部分では、目標が達成できなかった原因として、(1)家族計画への政府のコミットメントが過大に見積られた、(2)供給面に重点がおかれすぎ、家族の適正な規模についての国民の認識の変革を意図する活動が手薄になった、(3)MOHに依存し過ぎて他の政府機関やNGOの有効活用がなされなかった、といった点が認識されたと述べられている(註1)。(第2点については、1984年にMexico City で開かれたInternational Population Conferenceにおけるケニア政府の報告でも述べられている。) これらの点を改善する必要性が認識され、政府部内に、次節で述べるNCPDを設立する動機となったようである。

NCPDの設立は、第4次Development Plan(1979-1983)の期間中、1982年になされた。

(2) NCPDについて

ケニア政府は1982年、家族計画サービスや人口関係のIEC活動を全般的にコーディネートする機関として、NCPDを設立した。NCPDのTerms of Referenceは別添1のとおりである(注2)。

NCPDは、Umbrella organizationと性格づけられており、収集した情報やリサーチに基づき、実際に事業を行う諸機関に政策提言を行いつつ国としての家族計画事業の舵取りをする調整機関であるように思われる。しかも避妊サービス供給システムへの直接の関与はあまり大きくなく、人口・家族計画活動のなかでも特にIEC活動の調整を中心的な任務とする機関という性格が強いような印象を受ける。

NCPDがまとめたペーパーのなかでは、NCPDの目的を遂行するための戦略として、(1)人口問題に係わる諸活動・諸機関についての文書とりまとめと評価、(2)リサーチ(その重点テーマは別添2のとおり(注3)が打ち出されており、これらの結果に基づいてNCPDがIEC活動を調整していくことがうたわれている。一方、サービス供給システムについてはMOHが中心になって行っているCBDプログラムのための状況整備が推奨されているにとどまる。

NCPDの組織については、JICAの「ケニア人口家族計画基礎調査報告書」に記載がある。また、今回NCPDで聴取したところによると、スタッフ総勢は約50名だが、かなりの数のスタッフが研修等のため実務を離れているという。NCPDの性格、調整能力等については、プロジェクト開始後も引き続き具体的かつ明確な理解に努める必要があると感じられた。

(3) その後の人口対策 …その成果と問題点及び将来展望…

1978年には、505のサービス供給拠点が存在していた。1979-83年の計画では、1983年までにサービス供給拠点を820にすることが目標で、実際に達成された数字は648であった(表1参照)この期間のクリニック増のうち相当の部分は民間クリニックの増加によるものだったようである(前述のFamily Planning in the Private Sector Project)。

トレーニング面では1983年までにenrolled community nurses、registered nurses、midwives、clinical officersといった職種の人々がトレーニングを受けた(総数2,401人)。さらに1982-85年の計画としては、年間300人のヘルススタッフを各地の施設でトレーニングすることになっている。

IEC活動を受け持つFamily Health Field Educatorについては、1979-83年の間に総数を940にすることが目標とされ、実際には929人がトレーニングを受け、目標はほぼ達成された。また、この期間にMOHの支援により、映画やaudio-visual vansが調達された。

1984年のKCPS調査では、81%の婦人(多分、既婚の出産可能年齢の婦人のなかでの%)が少なくともひとつの避妊法について知っていると言ったが、実際に「近代的」避妊法のうちひとつでも実行している者は17%(1977/78には7%)であった。

望ましい子供の人数として回答された数の平均は5.8人（1977/78 には6.5人）であった。

80年代前半までの家族計画プログラムは、人口動態指標のレベルでは目に見える成果をあげていないが、国民の意識や知識というレベル、あるいは、サービス供給拠点数やトレーニングを受けたスタッフ数というレベルでは見るべき進歩があったと言ってよからう。

一方、KCPS調査で得られた、「90.5%の婦人が、出産間隔をより長くし、家族の数を抑えることを希望するとしている一方、これらの婦人のうち33%しか家族計画プログラムを利用していない」という所見は、プログラムの短所を指摘している。同じKCPS調査で、地方においては家族計画サービス拠点まで1時間以内で行ける人は36%しかいなかった。また、地方において家族計画のサービス拠点から4マイル以内に住んでいる人は人口の50%であるのに対し、家族計画受容者のなかでは70%が4マイル以内に住んでいた。このようにクリニックへのアクセスの悪さの問題が数字で示されてきた。クリニック配置の地域差の問題も指摘された。

1978年に505あったクリニックのうち、48はナイロビにあり、平均して、2,416人の15-45歳の女性を対象人口としていたのに対し、North-Eastern Provinceには4つのクリニックのみで、平均10,000人以上（しかも対象地区面積は平均32,475kmに及ぶ）を対象としていた。また、クリニックの業務のなかで治療的サービスの占める割合が大きく、予防的活動や家族計画が十分行える体制になっていないところも多い。さらに、クリニックで供給されるサービスは、訓練されたスタッフの不足、開院時間がユーザーの便宜を考慮していない。プライバシーが守られないといった理由から、ユーザーにとって概して満足できる状態にはない。アウトリーチ・サービスもあまりうまく組織されていないようである。

さらには、ケニアの家庭での子供の数の決定に夫の意見は非常に重要であるにもかかわらず、「男性」はプログラムの対象として十分認識されてこなかったし、未婚の女性に対しても不十分なサービスしか供給されてこなかった。

当計画でも、家族計画プログラムのなかでは、MCHクリニックのマスターファイルのデータはほとんど利用されてこなかった。（マスターファイルは、家族計画サービスのユーザーが、active（現在サービス利用中）かnonactive（サービスを利用しなくなった）かを仕分けして集計する目的にのみ使われてきた。）サービスを途中から利用しなくなった人のフォローアップや、ピルなどの副作用とプログラム利用率との関係の分析などは全く行われていない。

Community Based Distribution (CBD) Systemは、現在ケニアで最も広く行われている避妊サービス供給のストラテジーである。CBD活動は、1981年から小規模で始められたが、1983年以来、処方が必要としない避妊具やピルの供給を行う効果的なシステムとなりうるものとして注目されてきている。このシステムは、TBA (Traditional Birth Attendants; いわゆる産婆)、地元の商店主、地域のリーダー、その他医療従事者としての教育を受けていない人々に簡単なトレーニングを施して、避妊具等の配布を行ってもらうというものである。CBDのストラテジーは家族計画を、他の地域開発活動と有機的に結びつける効果をもつと期待され

のストラテジーは家族計画を、他の地域開発活動と有機的に結びつける効果をもつと期待されている。

現在は1984-1988のDevelopment Planのもとに人口政策が行われている。この期間の計画では、人口増加率を1984年の3.8%から1988年には3.3%にするという目標になっており、そのためには粗死亡率を52から44に減らす必要があり、150万人が家族計画を受入100万の出生を回避することによってその数字が達成されるとされている。さらに長期目標としては、2000年に人口増加率を2.5%にまで下げることとしている。

参考として、表2に、母子保健・家族計画プログラムの対象となる人々の数の1983年の推計を示す。また、別添3は人口政策のゴール(#4)、別添4は人口政策ガイドライン(#5) (いずれもNCPDのペーパーから)である。

ひとつの将来のビジョンとして、Khasiani(#6)は次のような意見を述べている。

「避妊サービスの利用に対する種々の制約要因は、より多くの婦人が教育を受け、婦人が職と収入を得ることによって婦人の社会的地位が向上すれば、かなり取り除かれるであろう。このような変化は経済成長の過程で起こってくる。それは、小さな家庭を望み、家族計画の利用を希望するという、態度の変化をもたらす。これらの変化に伴ってサービス供給の機構も変貌を迫られる。地域のすみずみまでいきわたり、利用可能な地域のリソースは十分に利用し、地域のニーズや嗜好にあったものになっていかななくてはならない。それはさらに地方政府の人々や地域の古くからいる人々を巻き込むことによって地域にふさわしいサービス供給者数を充足させることも目指す。これまで十分にサービスが行き届いていなかった男性や若年者にもサービスを提供する。このようなstrategy of community based servicesに基づくシステムが十分に発達してくれば、プログラムも効果をあらわし始めるだろう。このようなシステムは、情報、動機づけ、サービス供給、サービス受容者のフォローアップを包括した形で提供するであろう。」

ケニア政府は、DFRD (District Focus for Rural Development) を打ち出し、地域開発へのコミットメントを示している。上記の意見で示されているようなビジョンは、この方針とマッチすると思われるし、プライマリ・ヘルス・ケアの考え方の線にも沿うものである。ケニア政府のなかでこのような考え方へのコミットメントがどの程度強いのかということはよくフォローしておくべきであろう。

近年のさまざまな人口・家族計画活動のなかでは、IEC活動によって「小さな家族」という考え方を国民の間に浸透させることの必要性が繰り返して強調されているようである(ただし政府は子供は何人が良いという数値は示していないが)。また、家族計画はあくまでも夫婦の自由意志によるということも強調されている。

一方で、人口増加率ベースの目標は形骸化している感は否定できない。人口学の専門家の間でも、当分の間人口増加率の減少は見られないだろうという意見もある。人口増加による社会のひずみが顕在化してきたときに、ケニア政府がどう対応していくかは、注意深く見守ってい

く必要があるだろう。

(Notes and References)

(注1) この節の記載は、筆者の意見を述べた部分（「…と思われる」「…という印象を受けた」などと結んでいる文）を除き、以下の2つの文書・論文に基づいている。

(*) National Council for Population and Development (NCPD). 1984.

"Population Policy Guidelines. Sessional paper No4 of 1984."

(*) Khasiani, S.A. 1988. The family planning program in Kenya: current impact and future prospects. in "Kenya's population growth and development to the year 2000 AD". Chapter 5, pp. 40-47.

(*1) NCPD. op. cit. pp. 3-4.

(*2) Lbid. pp. 34-35.

(*3) Lbid. p. 15.

(*4) Lbid. pp. 16-18.

(*5) Lbid. pp. 30-33.

(*6) Khasiani, S.A. op. cit. p. 45.

表1 *Maternal and child health and family planning clinics in Kenya by province in 1979 and 1983.*

Province	MCH/FP			FULL TIME			PART TIME		
	1979	1983	% Increase	1979	1983	% Increase	1979	1983	% Increase
Nairobi	47	55	(17)	40	45	(13)	7	10	(43)
Central	111	121	(9)	64	74	(14)	47	47	(0)
Coast	63	75	(19)	43	52	(21)	20	23	(15)
Eastern	78	97	(24)	55	66	(20)	23	31	(25)
N. Eastern	7	8	(14)	7	8	(14)	0	0	(0)
Nyanza	98	101	(3)	55	57	(4)	43	44	(2)
Rift Valley	115	126	(10)	70	81	(16)	45	45	(0)
Western	60	65	(8)	43	47	(9)	17	18	(6)
Kenya	579	648	(12)	377	430	(14)	202	218	(8)

Source: Eriksson, C., Maternal Child Health and Family Planning Clinics in Kenya. A comparison between 1979 and 1983. Unpublished Report of Ministry of Health 1984, Table.

表2 *An estimate of the target population of the family planning and maternal child health programme and acceptors of the family planning by province in Kenya in 1983.*

Province	Males aged 15-59 years	2/3 of women aged 15-49 years (at Risk to Becoming Pregnant)*	Estimated Acceptors of Family Planning in 1983 (January)	Children Agcd 0-4 Years
Central	553,674	361,970	6,697	595,132
Coast	405,955	243,777	4,812	320,351
Eastern	707,686	518,377	6,096	708,226
Nyanza	705,897	493,839	3,972	707,627
Rift Valley	892,970	530,018	5,268	856,891
Western	413,700	304,206	2,736	485,521
Nairobi	410,892	152,887	2,772	176,863
Nairobi City Council	—	—	9,575	—
Total	4,160,864	2,505,063	41,575	3,854,616

Source: CBS Population Projections for 1983.

This population excludes 1/3 of the women aged 15-59 estimated to be pregnant.

別添1

THE NATIONAL COUNCIL FOR POPULATION AND DEVELOPMENT

TERMS OF REFERENCE

1. To determine priorities in the fields of family planning and population development activities in Kenya, in relation to the social and economic policies of the Government.
2. To advise the Government on a national population policy including general planning and application of available financial resources.
3. To advise the Government on the scope and direction of all family planning and population development activities in Kenya.
4. To plan, supervise and co-ordinate an inter-agency multi-media information and education programme aimed at spreading family planning knowledge and practice and the improvement of maternal and child health in Kenya.
5. To promote public understanding and acceptance of the concept of family planning and a small family size.
6. To promote research into social, cultural and economic aspects of population planning and development.
7. To receive, evaluate and programme selected proposals and suggestions from the Government, agencies and other organizations, which contribute to the realization of the Council's objectives.
8. To promote research into contraceptive technology and encourage innovative approaches to family planning in Kenya, including the application of natural methods.
9. To liaise with donors and participate in negotiations for the funding of the projects in the programme.
10. To co-ordinate and control the receipt and disbursement of all funds required to finance the Council's activities.
11. To provide technical and other support services to the participating agencies in the carrying out of the programme activities.
12. To advise the Government on the annual budgeting requirements of the Council covering each year's proposed activities.
13. To set up a monitoring and evaluation system for all activities in the programme.
14. To liaise with both local and international organizations engaged in population development activities.
15. To co-opt or otherwise hire the services of experts or consultants in various fields to work with or for the Council, Executive Committee or Secretariat in the execution of any particular task.
16. With the approval of the Minister to undertake any other activities likely to assist in the achievement of the Council's objectives and any other functions as requested by the Government.

別添 2

Research.—Research helps development. In the context of population matters results of social and demographic research would assist the functions of the NCPD. The following are the research priorities considered necessary with a view to finding out:—

- (i) Adolescents fertility.
- (ii) The relationship between the status of women, their participation in the labour force and how this affects fertility.
- (iii) The cost and the value of children to various groups of parents.
- (iv) The influence of household decision-making process on reproductive goals.
- (v) The impact of labour migration from rural areas on fertility and its impact on resources.
- (vi) The effect of specific government policies (e.g. on land adjudication) on the household fertility decisions.
- (vii) The influence of specific institutions (e.g. religion and education) on fertility.
- (viii) The factors and problems related to the use and non-use of all forms of contraceptives.
- (ix) The extent and problems related to infertility, and sub-fertility, and
- (x) The extent of abortion and its consequences in health and in social-psychological areas.

別添 3

5. Population Policy Goals:

In view of the problems reviewed above, the following goals to guide policy and programme planning are suggested:—

5.1 Demographic Goals:

- (i) To reduce population growth rate from the current 3.8 per cent to 3.3 per cent by 1988 (see Appendix 2).
2.5 2020
- (ii) To encourage Kenyans to have a small family.
- (iii) To reduce fertility level, that sustains the high rate of population growth and at the same time assist those couples, as well as individuals who desire but are unable to have children.
- (iv) To reduce mortality further particularly the infant and child mortality, because such reductions would ultimately lead to lowering the fertility.
- (v) To reduce rural-urban and rural-to-rural migration which help to create the unplanned settlements in marginal lands and to help ease the pressure on basic need services in both the rural and urban areas.
- (vi) To motivate Kenya males to adopt and practice family planning.

5.2 Education Goals:

- (i) To improve the status of women through equal access and opportunities in higher education, training and remunerative employment.
- (ii) To improve general education attainment levels for both males and females and enhance the educational institutions' capacity to provide relevant skills for the youth, and
- (iii) To provide the youth with information and education concerning population matters.

5.3 Clinical Services Goals:

- (i) To ensure availability of contraceptives services for those women and men who are ready for and need them.
- (ii) To ensure adequate counselling, examination and a follow-up of the contraceptive users.
- (iii) To train, retrain and supervise health and other contraceptive workers in provision of contraceptive services, and
- (iv) To be vigilant about the type and quality of contraceptives being provided in the service delivery points.

POPULATION POLICY GUIDELINES

7. Area of Focus:

7.1. *The Role of Leaders:*

- (a) The time has come when all leaders in this country should provide effective leadership in all matters of population and family planning with a view to reducing the population growth rate.
- (b) The leaders at all levels will be involved in guiding, organizing and integrating the population and development programmes at their respective levels.
- (c) The National Council for Population and Development will undertake the training and development of leadership in population and family planning work in order to support the technical services.
- (d) The Government machinery for rural development will in future be based on the "District Focus". For this reason, all the leaders at the local level would be involved in population and family planning work through their local development committees. These matters should be integrated with other issues discussed and implemented at the district level.

7.2. *The Role of Education.*—It is now recognized that traditional methods and values have been eroded and that the responsibility of the parents has, to a large extent, been passed on to the teacher, who is expected to teach family life education in the school. Consequently, emphasis will be made on the following:

- (a) the school curriculum must be strengthened and should aim at different age groups consistent with their biological development and morality.
- (b) the education should be used to shape the attitudes of young people towards population and family life education and the related problems of rapid population growth and adolescent pregnancy which is an emerging serious problem associated with many deaths and suffering.
- (c) Moral and ethical teaching of our youth will be intensified. In this connection, there is need for teachers, parents and officials of government and non-governmental agencies to co-operate closely in family life and population education activities.

7.3. *The Clinical Services:*

- (a) The traditional methods of family planning are disappearing fast and for the country to achieve significant impact in slowing down the rate of population growth, this country will have to increasingly rely on modern scientific methods coupled with appropriate knowledge in information and education.

- (b) While it is appreciated that the family planning services are expanding, there is need for constant vigilance and improvement in the quality of management, personnel and facilities.
- (c) There will be more emphasis on motivation and involvement of men in family planning because the emphasis has been mainly on women in the past.
- (d) The provision of comprehensive medical services in all areas as an integral part of development will be improved to ensure survival of children in order to allay parental fears and therefore encourage the adoption of small family sizes.
- (e) Certain ethical considerations should be borne in mind by all those who are expected to deal with family planning in Kenya. In particular the following points are relevant.
 - (i) No individual should be coerced to practise any method of family planning inconsistent with such an individual's moral, philosophical, or religious beliefs.
 - (ii) Family planning activities should be conducted in a manner that safeguards the rights, health and welfare of all individuals who take part in family planning programmes.
 - (iii) Induced abortions as a method of family planning is contrary to the wishes of the Government of Kenya. No special fees or incentives of any kind should be used to women to coerce or motivate them to have abortions.
 - (iv) All forms of surgical sterilization must be voluntary after the clients have been given all the relevant information. A written consent in a language a client understands and speaks must be signed by each client before a surgical contraception is done.

1.4. *The Role of Mass Media.*—The mass media has an important role to play in information and population education and will therefore be used to the maximum in providing population information and mobilizing the community.

1.5. *Institutional Framework:*

- (a) The Government will endeavour to fund the population activities in this country and will involve all the relevant ministries and agencies at all levels.
- (b) The role of NGO's will be strengthened and the necessary financial support will be provided to them with a view to complimenting Government in promotion of population/ family planning activities.

(付)

MCH/F Pの短期専門家の役割

「IEC調査・IEC製作のバックアップ」

- (1) NCPDの他、MOH等のケニア政府機関、UNFPA、IBRD、USAID等の他のドナー機関、ナイロビ大学等の研究教育機関のMCH/F P専門家との連絡・調整。
- (2) IEC活動のための諸調査の計画・実施に際し、また、IEC教材の製作に当たって専門的見地から指導・助言を与えること。
- (3) プロジェクト・フィールド選定のための準備作業に、専門的見地から指導・助言を与えること。
- (4) IEC製品のデリバリーを含め、総合的なサービス供給ルートを検討すること。
- (5) プロジェクトのモニタリング/エバリュエーションに、専門的見地から指導・助言を与えること。

MCH/F Pの短期専門家は、本プロジェクトのなかで行われる諸調査への助言・指導や関連機関との協議・調整を行うに当り、「4-1-1、ケニアの人口の推移と現状」で述べたような統計データについてある程度のオリエンテーションをつけておくことが必要であろう。また、センサスや種々の調査におけるデータ収集方法（具体的には質問票の内容、sampling scheme、調査員のトレーニング等）、データ解析法（たとえば、出生についてはCoale-Trussell Model、Compertz Relational Model、死亡についてはBrass models等）、人口推計の方法論、電算機処理上の問題点、データのとりまとめ方等を総合的に見渡した上でケニアの統計の質やサーベイ実施能力のレベルを客観的に評価できるだけの見識をもっていることが望ましいであろう。

また、デリバリー・ルートについては、特にCBDプログラムの現状についてオリエンテーションをつけておくことも必要であろう。

さらに、「4-1-2、ケニアの人口対策の進展と人口政策の現状」で述べたような家族計画サービスの全体像を十分認識したうえで、本プロジェクトにおける「IEC調査・IEC製作のバックアップ」を行うことが求められるであろう。

6. 資 料

RECORD OF DISCUSSIONS
BETWEEN THE JAPANESE IMPLEMENTATION SURVEY TEAM
AND
THE AUTHORITIES CONCERNED OF THE GOVERNMENT OF
THE REPUBLIC OF KENYA
ON
THE JAPANESE TECHNICAL COOPERATION
FOR THE PROJECT OF PROMOTION OF POPULATION EDUCATION

The Japanese Implementation Survey Team (hereinafter referred to as "the Team") organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Dr. Toshiyuki Mizukoshi, Professor, Faculty of Human Sciences, Osaka University, visited the Republic of Kenya from December 8 to 16, 1988 for the purpose of working out the details of the technical cooperation program concerning the Project of Promotion of Population Education (hereinafter referred to as "the Project").

During its stay in the Republic of Kenya, the Team exchanged views and had a series of discussions with the Kenyan authorities concerned in respect of desirable measures to be taken by both Governments for successful implementation of the Project.

As a result of the discussions, both parties agreed to recommend to their respective Governments the matters referred to in the document attached hereto.

Nairobi, December 16, 1988.

Prof. Toshiyuki Mizukoshi
Leader,
Japanese Implementation Survey Team,
Japan International Cooperation
Agency

For PERMANENT SECRETARY
OFFICE OF THE VICE-PRESIDENT
MINISTRY OF HOME AFFAIRS
P. O. Box 30478 NAIROBI

Permanent Secretary, Office of the
Vice-President, Ministry of Home
Affairs and National Heritage

16/12/88

ATTACHED DOCUMENT

I. COOPERATION BETWEEN BOTH GOVERNMENTS

1. The Government of Japan and the Government of the Republic of Kenya will cooperate with each other in implementing the Project for the purpose of promoting population education; and thus contribute to the promotion of the family planning and maternal and child health activities in the Republic of Kenya.

2. The Project will be implemented in accordance with the Master Plan which is given in ANNEX I.

II. DISPATCH OF JAPANESE EXPERTS

1. In accordance with laws and regulations in force in Japan, the Government of Japan will take necessary measures through JICA to provide at its own expense services of the Japanese experts as listed in Annex II through the normal procedures under the technical cooperation scheme of the Government of Japan.

2. The Japanese experts referred to in 1. above and their families will be granted in the Republic of Kenya the privileges, exemptions and benefits no less favourable than those accorded to the experts of third countries or of international organizations performing similar missions in the Republic of Kenya. And the privileges, exemptions and benefits will include the following:

- (1) Exemption from income tax and charges of any kind imposed on or in connection with the living allowances remitted from abroad in relation to the implementation of the Project;
- (2) Exemption from import and export duties and any other charges imposed in respect of personal and household effects, including one motor vehicle per family, which may be brought in from abroad or taken out of the Republic of Kenya.

III. PROVISION OF MACHINERY AND EQUIPMENT

1. In accordance with laws and regulations in force in Japan, the Government of Japan will take necessary measures through JICA to provide at its own expense such machinery, equipment and other materials (hereinafter referred to as "the Equipment") necessary for the implementation of the Project as listed in Annex III, through the normal procedures under the technical cooperation scheme of the Government of Japan.



2. The Equipment will become the property of the Government of the Republic of Kenya upon being delivered c.i.f. to the Kenyan authorities concerned at the ports and/or airports of disembarkation, and will be utilized exclusively for the implementation of the Project in consultation with the Japanese experts referred to in ANNEX II.

IV. TRAINING OF KENYAN PERSONNEL IN JAPAN

1. In accordance with laws and regulations in force in Japan, the Government of Japan will take necessary measures through JICA to receive at its own expense the Kenyan personnel connected with the Project for technical training in Japan through the normal procedures under the technical cooperation scheme of the Government of Japan.

2. The Government of the Republic of Kenya will take necessary measures to ensure that the knowledge and experience acquired by the Kenyan personnel from technical training in Japan will be utilized effectively for the implementation of the Project.

V. SERVICES OF KENYAN COUNTERPART AND ADMINISTRATIVE PERSONNEL

1. In accordance with laws and regulations in force in the Republic of Kenya, the Government of the Republic of Kenya will take necessary measures to secure at its own expense the necessary services of Kenyan counterpart and personnel as listed in ANNEX IV.

2. The Government of the the Republic of Kenya will allocate the necessary number of suitably qualified personnel corresponding to each Japanese expert to be dispatched by the Government of Japan as specified in ANNEX II for the effective and successful transfer of technology under the Project.

VI. SPECIAL MEASURES TO BE TAKEN BY THE GOVERNMENT OF JAPAN

1. In order to assure smooth implementation of the Project, in accordance with laws and regulations in force in Japan, the Government of Japan will take necessary measures through JICA to support the Government of the Republic of Kenya in financing the following expenditures necessary for the training programs for middle-level manpower conducted in the Republic of Kenya:

- (1) Travel allowances to and from the place of training for training participants;
- (2) Expenditures for preparation of teaching materials;
- (3) Travel allowances for field trips for training participants;

水部

ue

- (4) Expenditures for the purchase of supplies and equipment necessary for training programs;
- (5) Travel allowances for instructors when they accompany training participants on field trips;
- (6) Fees for instructors invited from other institutions other than ones directly connected with the Project.

2. Support for the above-mentioned expenditures will be reduced annually. The reduced portion of the expenditures will be replaced by the Kenyan side.

VII. MEASURES TO BE TAKEN BY THE GOVERNMENT OF THE REPUBLIC OF KENYA

1. In accordance with laws and regulations in force in the Republic of Kenya the Government of the Republic of Kenya will take necessary measures to provide at its own expense:

- (1) Land, buildings and facilities as listed in Annex V;
- (2) Supply or replacement of machinery, equipment, instruments, vehicles, tools, spare parts and any other materials necessary for the implementation of the Project other than those provided through JICA under III above;
- (3) Transportation facilities and travel allowance for the official travel of Japanese experts within the Republic of Kenya;
- (4) Suitably furnished accommodations for the Japanese experts and their families.

2. In accordance with laws and regulations in force in the Republic of Kenya, the Government of the Republic of Kenya will take necessary measures to meet:

- (1) Expenses necessary for the transportation of the Equipment within the Republic of Kenya as well as for the installation, operation and maintenance thereof;
- (2) Customs duties; internal taxes and any other charges imposed on the Equipment in the Republic of Kenya;
- (3) All running expenses necessary for the implementation of the Project.

水野

Wul

VII. ADMINISTRATION OF THE PROJECT

1. The Permanent Secretary of The Office of the Vice-President, Ministry of Home Affairs and National Heritage, as the Project Director, will bear overall responsibility for the implementation of the Project.
2. The Director of National Council for Population and Development (hereinafter referred to as "NCPD"), as the Project Coordinator, will be responsible for the administrative and managerial matters of the Project including coordination with the Kenya Institute of Mass Communications (hereinafter referred to as "KIMC") and other related institutions.
3. The Principal of KIMC (Site of the Project) will be responsible for the activities conducted at KIMC in accordance with the coordination referred to in 2.
4. The Japanese experts will provide necessary technical and managerial advice for the implementation of the Project in close collaboration with the Kenyan counterpart personnel concerned.
5. For effective and successful implementation of the Project, a Coordinating Committee will be established with the function and composition as referred to in ANNEX VI.

IX. CLAIMS AGAINST JAPANESE EXPERTS

The Government of the Republic of Kenya undertakes to bear claims, if any arise, against the Japanese experts engaged in the Project resulting from, occurring in the course of, or otherwise connected with the discharge of their official duties in the Republic of Kenya except for those arising from the willful misconduct or gross negligence of the Japanese experts.

X. MUTUAL CONSULTATION

There will be mutual consultation between the two Governments on any major issues arising from, or in connection with this Attached Document.

XI. TERM OF COOPERATION

The duration of the technical cooperation for the Project under this Attached Document will be three (3) years from December 16, 1988

水 越

[Handwritten signature]

ANNEX 1.

MASTER PLAN

1. Objective of the Project

The objective of the Project is to reinforce family planning and maternal and child health activities in the Republic of Kenya by promoting the activities of Information, Education and Communication (IEC) in KINIC.

2. Activities under the Project

The Project will consist of the following activities:

- 1) Research on IEC;
- 2) Upgrading IEC capability with provision of equipment;
- 3) Training of IEC personnel;
- 4) Development of IEC materials;

Handwritten signature or initials, possibly "W. K. O."

Handwritten signature or initials, possibly "W. K. O."

ANNEX II.

JAPANESE EXPERTS

1. Team leader
2. Coordinator
3. Experts in the fields of:
 - 1) IEC;
 - 2) Family Planning;
 - 3) Maternal and child health;
 - 4) Other related fields mutually agreed upon as necessary.

水野

ml

ANNEX III.

LIST OF EQUIPMENT

1. Equipment for Video Studio
2. Equipment for Out-Door Production
3. Equipment for Video Editing System
4. Equipment for Audio-Recording System
5. Equipment for Slide Production
6. Vehicle
7. Equipment for Training
8. Small-Scale Printing Equipment

李敏

ul

ANNEX IV.

LIST OF KENYAN COUNTERPART AND ADMINISTRATIVE PERSONNEL

1. Project Director
2. Project Coordinator
3. Principal of KIMC
4. Department Head Responsible for IEC research (NCPD)
5. Department Head Responsible for IEC material production (NCPD)
6. Department Head Responsible for Video Production (KIMC)
7. Department Head Responsible for Video Crew
8. Liaison Officer (NCPD-KIMC)
9. Administrative personnel
 - (1) Secretary
 - (2) Driver
 - (3) Others

水部

we

ANNEX V.

LAND, BUILDINGS AND FACILITIES

1. Land for The Kenya Institute of Mass Communications in Nairobi.
2. Buildings and facilities
 - (1) Sufficient space for the implementation of the Project
 - a) Video Studio
 - b) Video Editing Room
 - c) Audio Studio
 - d) Workshop
 - e) Others
 - (2) Offices and necessary facilities for the Japanese experts
 - a) Japanese Expert's Rooms
 - b) Meeting Room
 - c) Others

水 敏

[Handwritten signature]

COORDINATING COMMITTEE

1. Functions

The Coordinating Committee will meet at least once a year, and whenever the need arises, and work:

- 1) To formulate the annual work plan of the Project in line with the Tentative Schedule of Implementation formulated under the framework of this Record of Discussions;
- 2) To review the overall progress of the technical cooperation program as well as the achievements of the above-mentioned annual work plan;
- 3) To review and exchange views on major issues arising from or in connection with the technical cooperation program.

2. Composition

- 1) Chairman: Permanent Secretary of The Office of the Vice-President, Ministry of Home Affairs and National Heritage.
(The Director, NCPD can deputise for the chairman in his absence.)

2) Members:

Kenyan side;

- a) Director of NCPD
- b) Principal of KIMC
- c) Department Head Responsible for IEC research(NCPD)
- d) Department Head Responsible for IEC material production(NCPD)
- e) Department Head Responsible for Video Production(KIMC)

Japanese side;

- a) Team Leader
- b) Coordinator
- c) Other experts
- d) Members of the team to be dispatched by JICA as necessary
- e) Resident representative of JICA Kenya Office

Note: Officials of the Embassy of Japan in the Republic of Kenya may attend the Coordinating Committee as observers.

水野

ul

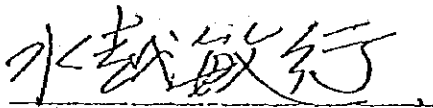
TENTATIVE SCHEDULE OF IMPLEMENTATION
OF
THE PROJECT ON PROMOTION OF POPULATION EDUCATION

The Japanese Implementation Survey Team and the Kenyan authorities concerned have jointly formulated the Tentative Schedule of Implementation of the Project as annexed hereto.

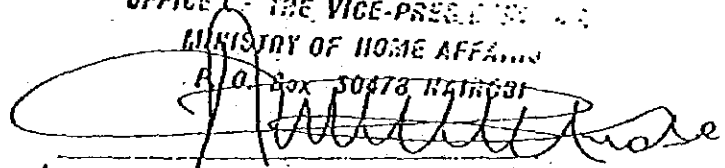
This has been formulated in connection with 1.2. of the Attached Document of the Record of Discussions signed between the Japanese Implementation Survey Team and the Kenyan authorities concerned for the Project on Promotion of Population Education, on the condition that the necessary budget will be allocated for the implementation of the Project by both sides, and that the Schedule is subject to change within the framework of the Record of Discussions whenever the need arises in the course of implementation of the Project.

Nairobi, December 16, 1988

For PERMANENT SECRETARY
OFFICE OF THE VICE-PRESIDENT
MINISTRY OF HOME AFFAIRS
P.O. Box 50478 NAIROBI



Prof. Toshiyuki Mizukoshi
Leader,
Implementation Survey Team,
Japan International Cooperation
Agency



Permanent Secretary, Office of the
Vice-President, Ministry of Home
Affairs and National Heritage

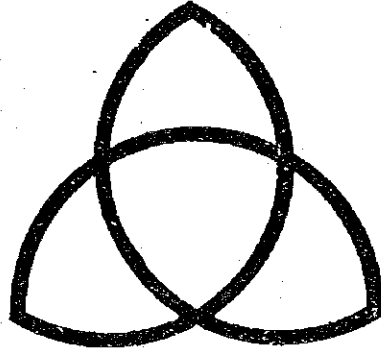
16/12/88

TENTATIVE SCHEDULE OF IMPLEMENTATION

Year Phase	88	89	90	91	Expected output
Project preparation	—				foundation of cooperation project
Research on IEC		—		—	Report on IEC activities
Installation of equipment		—	—	—	Promotion of productivity
Improvement of the capability of Media Production		—	—	—	Better Capability of production
Evaluation				—	Recommendation for future activities

Handwritten signature

Handwritten signature



**Kenya Institute of
Mass Communication**

PROSPECTUS

KENYA INSTITUTE OF MASS

COMMUNICATION

POSTAL ADDRESS

P.O. BOX 42422

NAIROBI

KENYA

Nairobi South 'B'
Off Mombasa Road

TELEPHONES

NAIROBI - 540820/1/2/3/4/5

540830/1/2/3/4

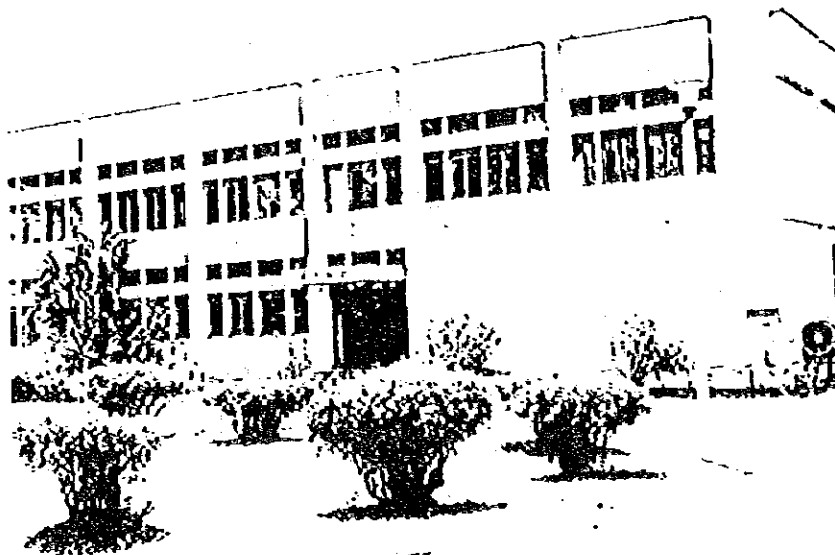
540875/6/7/8/9

559586 (Call Box)

Cables: 'KIMC' Nairobi

Telex: 222244 KNOWLEDGE

This Edition Issued - October, 1987



K.I.M.C. ADMINISTRATION BLOCK
ENTRANCE

KENYA INSTITUTE OF MASS
COMMUNICATION

P R O S P E C T U S



H.E. THE HON DANIEL T. arap Moi C.G.H.M.P. President and
Commander-in-Chief of the Armed Forces of the Republic of
Kenya Tours the Institute on 26th February, 1986 before
officially opening the Film Training Department.

P R O S P E C T U S - 1 9 8 7

KENYA INSTITUTE OF MASS COMMUNICATION

CONTENTS:

1. STATEMENT BY PERMANENT SECRETARY
2. FORWARD - BY PRINCIPAL
3. HISTORY OF THE INSTITUTE
4. AIMS AND OBJECTIVES OF THE INSTITUTE
5. THE INSTITUTE SET-UP
6. TRAINING DEPARTMENTS
 - A. ENGINEERING
 - B. PROGRAMME PRODUCTION
 - C. INFORMATION
 - D. FILM PRODUCTION
7. FUTURE PROPOSALS FOR DEVELOPMENT



Film Still Photography and move camera

KENYA INSTITUTE OF MASS COMMUNICATION

HAND - BOOK - 1987

MESSAGE FROM MR. J. F. C. BIRIR, THE
PERMANENT SECRETARY, MINISTRY OF INFORMATION
AND BROADCASTING

With the rapidly growing global advancement in technology, especially as regards the media of mass communication, the old-age "ADAGE" that "A JOURNALIST IS BORN AND NOT MADE" seems not to hold water any more.

Consequent upon this realisation, the Kenya government, through the Ministry of Information and Broadcasting resolved at the time of Independence in 1963 that if the country was to develop as a nation, it must be able to train its people in the vital field of communication.

KIMC which has celebrated its second decade, is a direct product of such realisation. Since its inception, the Institute has not only undergone a notable metamorphosis, but has also endeavoured to keep up with the rapid

change brought about by the dynamic growth in various sectors of Kenya's economy.

KIMC has bravely faced the challenge of producing qualified personnel to man various functions of the Ministry. Those who have gone through KIMC are now holding responsible positions both in public and private sector in Kenya and other countries.

From a single department set up in 1965 to train technicians who would man various VOK technical installations, KIMC has grown into a fairly complex institution. It now has four training departments catering for the production of skilled manpower in electronic engineering, programme production, print media journalism and film production.

The Government is fully committed and determined to put more efforts, in the provision of mass media facilities at the Institute to enable young Kenyans acquire necessary know-how so that they could leave Kenya Institute of Mass Communication fully prepared to face the world of News media with confidence.

MESSAGE FROM THE PRINCIPAL, KENYA INSTITUTE
OF MASS COMMUNICATION - MR. J. K. WANJAU

FORWARD:

This booklet is what one may consider as a second edition since the inception of the Kenya Institute of Mass Communication. It has been produced not with the intention to make it a sort of textbook for deep scholastic reading. The purpose is to give those interested in the affairs of the Institute, a concise gist of its diverse training activities at the present time.

Since the production of the first edition of the booklet, KIMC has greatly diversified the training programmes. Rapid development and frequent changes are some of the major factors which make it extremely difficult to keep a prospectus such as this one upto date. These factors have therefore necessitated the production of this revised edition.

To many television viewers in various parts of the country, the name KIMC is synonymous with some popular Voice of Kenya programmes such as VITIMBI and the like. This may create a wrong impression that KIMC is still an ANNEXE of Voice of Kenya which it used to be at the beginning. TV Production is just one aspect of training carried out at the Institute and Voice of Kenya is just one of the departments utilising the services. Department of Information and that one of Film Production are the other two user departments.

From simple beginnings in the late sixties, KIMC has grown into one of the most respected institutions of its kind in Africa. Starting with a single training department in 1965, the Institute has within two decades witnessed tremendous development in terms of equipment, manpower and course content in the present four training departments. At the moment, the Institute is admitting students, not only from Kenya, but also from several neighbouring countries.

One would rightly claim that KIMC has come of age and is now equipped with modern facilities for the training of electronic media technicians, film producers, editors, print media journalists as well as radio and television producers. It is perhaps the only institution in Eastern and

Central Africa which is producing formal and practical training in the field stated above.

Qualifications for recruitment of trainees have changed over the years and the four training departments have different entry requirements for their courses as follows:-

Those who apply to be trained at KIMC as Assistant Information Officers as well as Radio and Television Assistant Producers must possess Kenya Advanced Certificate of Education or its equivalent with at least two principals passes. One of them must be in English Literature while the other principal pass should be in any of the following subjects:- History, Kiswahili, economics or Geography. In addition, the applicants should have scored good credits in Kiswahili and English languages at KCE level and be able to communicate effectively in both languages.

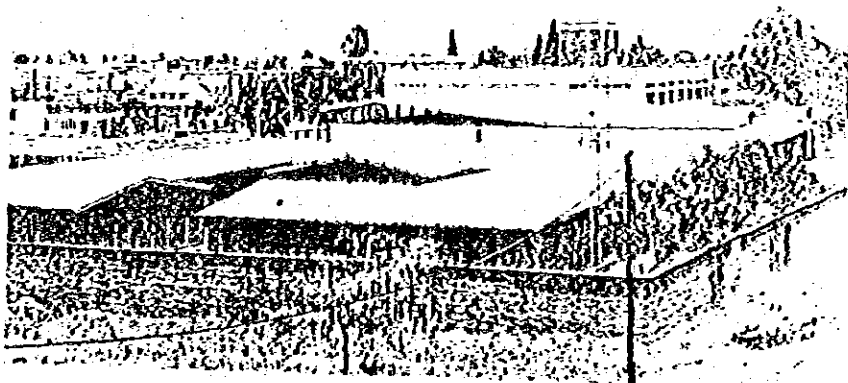
As for the Film Production Training, the technical classes enrol holders of Kenya Certificate of Education with a minimum of Division II with credits in English, Kiswahili and any one of the following subjects. Economics, Physics, Chemistry and Mathematics. For the Film Production class, a University degree is a must but no mass media experience is required. All the courses stated above last for two years.

In the Engineering training department, there are two courses, one for Assistant Inspector (Senior Technicians) which lasts for three years and another for Studio Technical Operators which has a duration of two years. The former enrolls school leavers with a minimum of Kenya Certificate of Education Division II with credits in

Mathematics and either physics or physical science or physics with chemistry and a pass in English Language. For the later course, the applicants should have at least Division III of KCE level with good pass in Mathematics and either physics or Physical Science or Physics with Chemistry.

Currently all trainees are sponsored. However, the Institute is in the process of admitting self-sponsored students.

I hope that this booklet will give those who are interested enough information about KIMC as well as the limitations and successes if any.



Aerial view of K.I.M.C.

1. HISTORY OF THE INSTITUTE

Kenya Institute of Mass Communication (KIMC) was first proposed in 1961 as an "Electron House" - an engineering school whose primary function was to train all the technical staff for the then Kenya Broadcasting service. The following year witnessed the formation of Kenya Broadcasting Corporation and the start of television service in the country.

After independence in 1963 Kenya Broadcasting Corporation was nationalised and its name was changed to "VOICE OF KENYA" in 1964 under the Ministry of Information and Broadcasting. In its development plan, the Ministry included a training school as a priority project.

It was not very easy to find the necessary fund to establish a fully-fledged school and as a result, the VOICE OF KENYA TRAINING SCHOOL in 1965. Courses were started in a humble wooden building situated near Kenyatta National Hospital.

However, the Ministry did not forget that there was acute need for trained manpower not only in the technical fields, but also in programme production and journalistic fields. Negotiations therefore continued for funds coupled with preliminary planning for an institution which would provide such courses.

In 1967/68 financial year, funds were made available to facilitate the construction of the present Institute, namely KIMC in the South 'B' areas of Nairobi. Construction work commenced in October, 1967 and the first batch of trainees moved in from the VOK training school in November, 1968 to complete their

courses in the new INSTITUTE.

Since then, KIMC has witnessed considerable amount of expansion starting with the introduction of programme production courses in 1969 followed by the enrolment of the first information trainees in 1970. The newest department is that of Film Production training which was started in 1975. Clear testimony of its rapid expansion is borne by the fact that KIMC has now got the capacity for a total of 480 trainees. Coupled with the increase in the number of trainees has been the alteration of curricula for most courses to meet national and international requirements. Trainer strength has increased from initial ten to fifty members of training staff.

KIMC has grown into one of the most respected institutions of its kind in Africa admitting students not only from Kenya but also from several neighbouring countries. The Institute is now equipped with modern facilities for the training of electronic media technicians. Film producers, editors, print media journalists as well as radio and television producers. KIMC is perhaps the only institution in Eastern and Central Africa which is providing formal and practical training in the fields stated above.

2. AIMS AND OBJECTIVES OF THE INSTITUTE

The primary objective of establishing the Kenya Institute of Mass Communication (KIMC) was to train personnel for the specialised divisions in the Ministry of Information and Broadcasting. The aim was first to provide qualified personnel to the technical and artistic aspects of Broadcasting and Information services.

Apart from taking pre-service training programmes, KIMC was also charged with the responsibility of mounting in-service courses for already serving officers who had no prior formal professional training. Courses are offered for senior technicians, technical operators, film producers, radio and television production staff as well as assistant information officers who take a course in journalism.

This is by no means the limit of the KIMC functions. In consultation with other government ministries and other bodies like UNESCO, courses and seminars as well as other activities are organised from time to time when the workload and staffing conditions permit. So far, cooperation with other bodies has resulted in short courses attended by officials from various ministries as well as students from the school of Journalism, University of Nairobi. UNESCO has already sponsored several national as well as regional workshops on various topics attended by participants from Kenya and those from Eastern and Central AFRICAN COUNTRIES.

3. THE INSTITUTE'S SET-UP

Kenya Institute of Mass Communication is a reality today because of what the Kenya government through the Ministry of Information and Broadcasting realised at the time of independence in 1963. It was recognised that if Kenya was to develop as a nation, it had to be able to train its people in the vital field of communication.

KIMC is managed by a Principal on behalf of the Permanent Secretary, Ministry of Information and Broadcasting. He is

assisted by heads of four major training departments which undertake both pre-service and in-service training programmes. The four training departments are as follows:-

Engineering, Radio and Television production, Information as well as Film production.

Each department has specialised sections dealing with specific fields in Mass Communication. Training activities are directed by heads of departments who also supervise most of academic matters and advise the Principal through a committee of departmental heads. The lecturers work under the general direction of the departmental heads to whom they are responsible for all training, administrative and welfare matters concerning their courses.

The Institute has also got the following support sections:-

General Administration, Library, Maintenance, Catering, Supplies and Accounts.

An Executive Officer, a Librarian and the Cateress carry out their respective duties directly under the Principal.

ACCOMMODATION AND CATERING

Although KIMC has got students hostel for both male and female trainees, the present residential accommodation is not enough for all of the enrolled ones. The hostel can only accommodate upto 96 trainees at a time and most of them must therefore make their own arrangements regarding accommodation.

STUDENT'S ASSOCIATION

Students themselves run their affairs through an elected Student's Association. Their Chairman and other office bearers provide an important link between the administration and course participants. The trainees channel their problems through one of the lecturers who has been assigned to act as the Dean of students.

SPORTS AND ENTERTAINMENT

Due to lack of space, the Institute does not have adequate recreational facilities.

So far there is one volleyball pitch and facilities for a few indoor games. There is already a positive move towards the expansion of physical facilities in an effort to provide the necessary infrastructure for sports, and other types of entertainment.

Occasionally, the students organise disco dances to which they are allowed to invite students from other institutions in the city.

LIBRARY

When the new multipurpose technical block is completed, the Institute will have a large library capable of accommodating over 150 students at any particular time. At the moment the present library is not adequate to meet the needs of lecturers and trainees. The Institute has expanded much more faster than the small library which was built more than twenty years ago for the use of very few students.

There are four major training departments as follows:-

A. ENGINEERING TRAINING DEPARTMENT

This department is as old as the Institute itself and operates two major courses which produce technicians and technical operators for the Voice of Kenya.

The objectives of the department is to produce technicians and studio technical operators with necessary skills and training demanded by a large broadcasting organisation like the Voice of Kenya. Training facilities include well equipped electronic laboratories with measuring equipments and electronic experiment kits. other important training aids include television and radio low power transmitters which use dummy loads, microwave training equipments, digital trainers, etc.

With these modern facilities, the department trains technicians and technical operators who are able to fit into the broadcasting organisation after a short familiarisation period.

COURSES OFFERED ARE:

(i) ASSISTANT INSPECTOR (ELECTRONICS)

This training lasts for about three years and covers telecommunications and electronics theory upto Kenya National Examinations Council Technicians' course No. 2022 (Part II).

The syllabus for Technician course No. 2022 is in a separate booklet. Students are encouraged to prepare for Part III after the completion of Part II. The trainees also undergo Broadcast oriented training which covers subjects such as Studio

Techniques, TV fundamentals, Radio and TV transmitters, digital techniques, micro-waves, etc.

(ii) STUDIO TECHNICAL OPERATOR COURSE

The duration of this course is two years. The course emphasizes practical operation aspects of Broadcast equipments used in both Radio and Television departments.

The entire training programme is conducted at KIMC. The technical theory is taught to give the trainees an understanding of the technical capability of the practical training is given within KIMC Radio and Television studios.

SUBJECTS OF THE COURSES

The topics dealt with in these courses include:- Mathematics, safety regulations, sound, light, workshop practice, television fundamentals, television transmitters, television receivers, digital techniques, Microwaves system, photo electricity, television cameras, video tape recording system and radio transmitters. Also included in the course are various types of recording and reproduction, various aspects of colour television, photography, film projection, film cameras, studio and transmitter demonstrations as well as educational tours.

(iii) IN-SERVICE COURSES

In-service courses are organised regularly according to the requirement of the services.

B. PRODUCTION TRAINING DEPARTMENT

This section mounts a two year course in both radio and television production techniques leading to a diploma in either radio or television programme production.

(1) RADIO PRODUCTION

Covering all aspects of radio production duties, this two-year course encompasses all areas of radio programming from script writing, interviewing, production, features and documentaries, musical presentations, news reading and presentation, outside commentaries, discussion programmes, play writing and radio drama.

The course also places stress and emphasis on practical subjects and practical sound studio production exercises. Production trainees are also given full opportunity to operate various broadcasting equipment, thereby giving them a chance how to learn to utilize the tools of the media at their disposal at professional level of competence.

Course participants are also exposed to and reinforced in background theoretical subjects and projects that are necessary for the audio and electronic journalist. These subjects include Typing, History and Development of VOK and Broadcasting, Public

Relations, theory of Mass Communication, news and current events, rural communication and development planning, priorities in national development, sources of research, copyright, press laws and libel.

(ii) TELEVISION PRODUCTION

The two year television production course seeks to impart the necessary skills, techniques, knowledge and aptitude so that the trainee may be an effective television producer with sufficient experience to professionally work on any type of television programme. At the end of the course the trainee will have been taken through the stages of origination, planning, camera rehearsal, recording and any other post production work. These will cover all types of programmes, from interviews, panel discussions, musicals, dramas, childrens programmes, magazines, variety programmes, news to educational programmes.

(iii) In-service courses for T.V. and Radio as necessary.

C. INFORMATION TRAINING DEPARTMENT

The department of Information Training at the Kenya Institute of Mass Communication which became operational in 1970 is charged with the task of training government Information Officers by organising two types of courses, i.e.:

(i) Pre-Service Training

This is centred on the training of journalists who can fit in the Broadcast, News agency and print media journalism.

(ii) In-Service Course

These have been organised for officers serving either in the districts as Information Officers-cum-reporters or Rural press staff and occasionally for staff at Kenya News Agency Headquarters in Nairobi. This training

department has also been conducting induction courses for direct entry Information and Broadcasting without any prior professional training.

The department of Information in the Ministry is the main user of those trained by this department at KIMC.

However, the Journalists who complete their training at KIMC may be deployed to work in various units within the Kenya Government system. The duties they perform are in areas like Information departmental headquarters in Nairobi, Voice of Kenya Newsroom, Ministry of Foreign Affairs (Press Division), Presidential Press Unit, Vice Presidential Press Unit in addition to a number of Ministries which require Information officers to work for them as public Relations Officers.

COURSE SUBJECTS

At the moment, the pre-service Information training covers a wide range of both theoretical and practical subjects leading to a Diploma in Journalism.

They learn such professional subjects as News writing, feature writing, photography, public relations, advertising, broadcast journalism, editing and printing, mass communication theory, communication research, communication laws and rural press. The course also covers social, economic, political and cultural topics including rural development. Typing is also taught as well as language skills.

With effect from 1987, French language has been introduced as one of the course subjects for those trainees undertaking a two-year journalism Diploma course.

During the training period, the trainees spend six (6) months on internships at various field stations in the country where they work under close supervision by their lecturers.

D. FILM PRODUCTION TRAINING DEPARTMENT

This is the youngest department at KIMC. Its name is partly misnomer because the department, established in 1975, deals with technical aspects as well as the strictly production side of films making. The course aims at turning out professional 16mm film makers capable of producing documentary and educational films with emphasis being given to educational development projects as well as social and cultural activities. It is obvious that apart from technical problems, the main drawback faced by the Voice of Kenya revolve around the lack of qualified personnel in both technical growth of local film production spheres. It is this lack which is hampering the growth of local film production and the over dependence of foreign film. Film training graduates will therefore strengthen the film sections of the Voice of Kenya - the Documentary Film Unit, the TV NEWS section and the Presidential Film Unit. The influence of the Film Training Department will also be felt in the Ministries of Education, Agriculture, Health, Tourism and others which have began educative film production projects.

Through an agreement made in 1975 with Ministry of Information and Broadcasting, the German Friedrich-Ebert Foundation has provided substantial support for the project in the form of equipment and manpower. The Kenya Government has actively supported the project from its inception by

providing classroom space, workroom and offices and assuming all the running costs. By the end of 1985 the Foundation withdrew from the project leaving qualified Kenyans to continue with the training programme.

The training itself is like in other departments at KIMC predominantly practical rather than academic. The courses are specialised and concentrate on the various disciplines within the field of film making. The department equips trainees with professional skills in either camera work, production, sound operation, editing and laboratory work (processing). Trainees are also exposed to film animation, graphic design and maintenance equipment.

FILM PRODUCTION TRAINING

In addition, regular courses are carried out in maintenance and graphic design. The training has a duration of two years for all classes divided in four parts - Basics I and II. For the film production class, a University degree is a must but no mass media experience is required. All other technical classes enrol holders of Kenya Certificate of Education with Division I or II with credits in English, Kiswahili and any one of the following subjects:

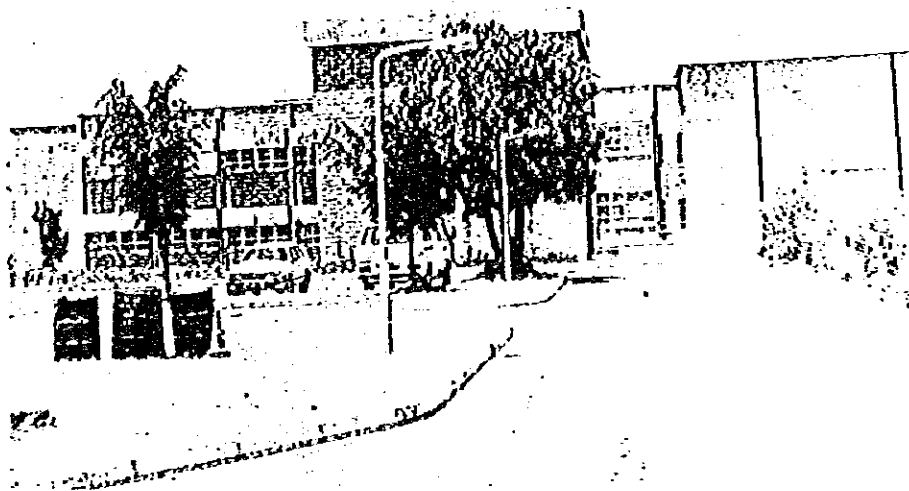
Economics, Physics, Chemistry and Mathematics.

The department also runs in-service courses on an ad hoc basis. They cover such fields as film animation techniques, double system film production, colour film projectionist techniques and film equipment maintenance.

FUTURE PROPOSALS FOR DEVELOPMENT

Two key areas which have posed some problems are the absence of a good library and inadequacy in accommodation for all trainees.

Plans are now underway to construct a multi-purpose block which will house a library and other tuition facilities, while a new hostel is also expected to come up soon. At present, only 96 trainees can be offered accommodation and the library can hold only 50 persons.



FILM PRODUCTION TRAINING DEPARTMENT

JICA